



平成30年度版

あおりの 野菜



**あおもりの野菜は、
豊かな自然と
きまじめな生産者が育てた
安全・安心な野菜です。**



発行：青森県農林水産部農産園芸課
TEL：017-734-9481
E-mail：noen@pref.aomori.lg.jp

青森県には世界に誇れる豊富な農林水産資源と、それを支える「きれいな水」や「健康な土」などの恵まれた生産基盤、さらには若い元気のある「人財」が育っているという強みがあり、これらを最大限に発揮する施策を展開していくことで、農林水産業の「成長産業化」をめざしています。

あおもりの野菜は、自然豊かな環境のもとで、生産者が「こだわり」をもって「正直にまじめに」育てた自信をもっておすすめできる「健康野菜」です。

目次



青森県の主要野菜

ながいも	・・・	2	きゅうり	・・・	24
にんにく	・・・	4	ピーマン	・・・	26
ごぼう	・・・	6	いちご	・・・	28
だいこん	・・・	8	えだまめ	・・・	30
にんじん	・・・	10	さやいんげん	・・・	32
ばれいしょ	・・・	12	ねぎ	・・・	34
こかぶ	・・・	14	キャベツ	・・・	36
トマト	・・・	16	レタス	・・・	38
ミニトマト	・・・	18	ほうれんそう	・・・	40
メロン	・・・	20	ブロッコリー	・・・	42
すいか	・・・	22			

青森の伝統野菜	・・・	44
まだまだあるぞ！あおもり野菜	・・・	46
青森県産野菜の生産と流通	・・・	47
付表	・・・	50
旬のカレンダー	・・・	55
日本一健康な土づくり推進運動	・・・	56



作付面積日本一、出荷量全国2位
青森県産野菜のエース!!



ながいも

青森県のながいもは、作付面積日本一で出荷量全国2位、国内出荷量の約4割を占めています。

品種は、在来種「ガンクミジカ」に由来する首が短く肉付きの良い系統や品種が普及しており、色白で粘りが強くアクが少ないのが特徴で、品質が良いながいもとして全国の市場から高い評価を得ています。

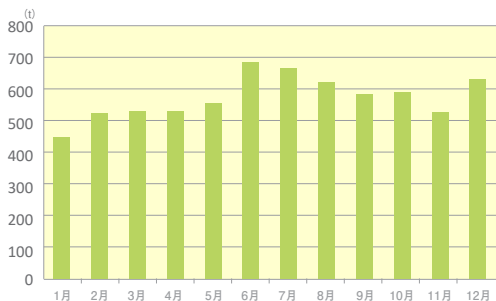
5月に植え付けが始まり、11月から12月（秋掘り）と越冬後の3月から4月（春掘り）の年2回収穫されます。

各産地には、低温貯蔵庫が整備され、年間を通じて全国に出荷されているほか、近年はアメリカにも輸出されています。

全国の生産状況 (H29)

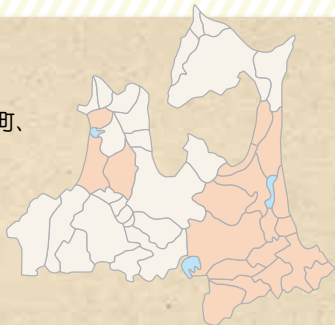
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	北海道	55,600	1,910
2	青森	48,100	2,250
3	長野	5,670	307
4	岩手	2,790	193
5	茨城	2,580	116
	全国	119,000	5,200

県産月別入荷量 (H29 東京都中央卸売市場)



主な産地

三八地域：八戸市、田子町、五戸町、南部町、三戸町、
新郷村、階上町
西北地域：五所川原市、つがる市
上北地域：十和田市、七戸町、東北町、六ヶ所村、
横浜町、三沢市、六戸町、野辺地町、
おいらせ町



産地レポート

J A ゆうき青森

◆産地の情報

J A ゆうき青森のながいも生産部会は会員が520名、作付面積が505haで県内一の生産量を誇っており、エコファーミング認証システム（J A 独自の認証制度）に基づく徹底した土づくりによるおいしくて安全なながいもづくりが自慢の産地です。

全国でもトップクラスの規模を誇るながいも洗浄選別・貯蔵施設があり、1日最大48tのながいもを処理できる安定した出荷体制の確立により、首都圏を中心とした周年出荷が行われています。



◆品質・収量向上と消費者交流に積極的な取組

品質の良いながいもを多く生産する基本はなんと言っても優良な種苗を使うこと。そのため、J A では種苗増殖ほを設置し、厳正な栽培管理やウイルス病のチェックを経た優良な種苗の増殖と生産者への供給が行われています。

また、消費宣伝活動として今年度で第11回目となるおいしいながいも決定戦は、第1次審査として糖度、形状と試食により上位5点を一般消費者の投票により順位を決定しています。

平成30年度は、イオン仙台で開催しました。



おいしいながいも決定戦

県目標の単収3.6tをクリアできるよう頑張ります！

【topic】

各産地共通
の
「取組」

～「ながいもプロフェッショナル養成所」開設による
高度な若手農業者の育成～

平成29年度から、「ながいもの達人」の高度な技術を伝承するため「ながいもプロフェッショナル養成所」を開設し、各産地の若手生産者の

確保・育成に取り組んでいます。講師を務める「ながいもの達人」は、平成29年度に4名、平成30年度に4名の合計8名を県が認定しています。



ながいもプロフェッショナル養成所



国産の7割を占める日本一の産地！
 大きさ、雪のような白さ、
 品質の良さが自慢！



にんにく

青森県のにんにくは、日本一の生産を誇り、国内出荷量の約7割を占めています。栽培品種は、本県の気候に適した「福地ホワイト」で、その栽培は昭和37年から田子町で本格的に始まり、その後、水田転換政策により昭和40年代後半から全県に拡大しました。

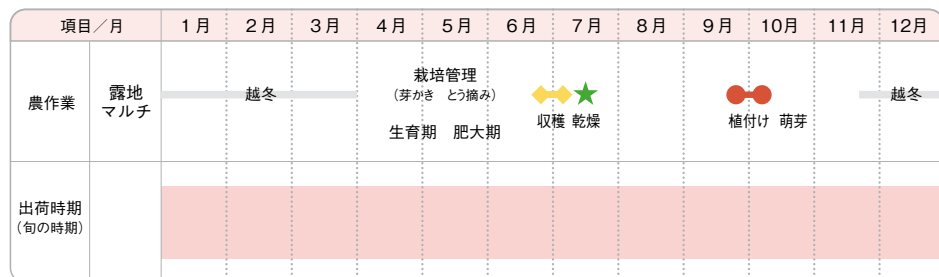
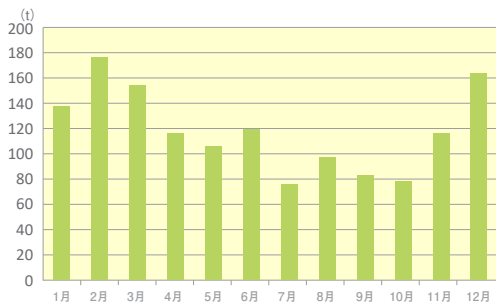
福地ホワイトは、県外産に比べ、大玉の6片種で、1片が大きく、実がよく締まり、雪のように白いことから、市場等で高い評価を得ています。

6月から7月に収穫されたにんにくは、乾燥後に冷蔵庫で保管され、1年を通じて安定して出荷されています。

全国の生産状況 (H29)

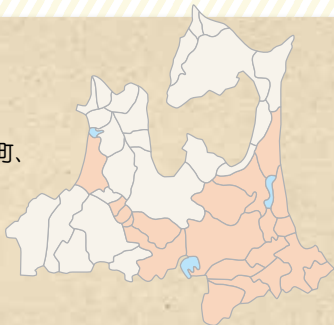
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	青森	9,860	1,380
2	香川	671	102
3	北海道	618	119
4	宮崎	306	68
5	熊本	233	38
	全国	14,500	2,430

県産月別入荷量 (H29 東京都中央卸売市場)



主な産地

中南地域：平川市、黒石市、藤崎町、田舎館村
 三八地域：八戸市、田子町、五戸町、南部町、三戸町、
 新郷村、階上町
 西北地域：つがる市、板柳町
 上北地域：十和田市、七戸町、東北町、六ヶ所村、
 三沢市、六戸町、おいらせ町



産地レポート

JA十和田おいらせ 野菜振興会にんにく部会

◆産地の情報

JAの主な産地は、野菜づくりが盛んな十和田市を中心とした上北地域です。管内の作付面積は399ha、出荷数量は1,390tで、国内一の生産量を誇っています。

にんにくは、9月中旬～10月中旬に種となるりん片を植え付け、翌年6月下旬～7月上旬に収穫します。極寒の中でじっくり育つため、辛みが少なく甘みのある味わいとなっています。

にんにく部会長の戸館さんは、JA十和田おいらせのにんにくを日本一のブランドにするため、部会活動を強化していると話していました。



◆土へのこだわり「TOM-VEGEにんにく」

JAでは、土壌のミネラル成分等を測定、調整し、糖度、硝酸値の独自基準に適合したものを「十和田おいらせミネラル野菜（TOM-VEGE（トムベジ）」ブランドとして出荷しています。「健康で美味しい野菜づくり

りの基本は、健康な土づくりにある」という姿勢で生産者一丸となって、消費者に喜ばれる野菜づくりに励んでいます。

また、食の安全・安心が求められる中、トレーサビリティの徹底に努め、残留農薬検査も実施しています。

◆販売への取組

出荷先は、7～8割が関東方面で、他に大阪、名古屋、九州となっています。多方面からの引き合いが強く、市場出荷だけではなく、契約販売やインターネット販売など新たな販売方法にも力を入れています。

また、高付加価値化を目指し、低臭化したプレミアムにんにくを使った商品開発にも取り組み、これまでににんにくパウダーやにんにくドリンク等を製造、販売しています。特に、にんにくパウダーは平成26年度青森県特産品コンクールで最優秀賞を受賞しました。



にんにく関連商品



戸館にんにく部会長



生産量日本一！
健康志向の高まりでますます
注目されている！



ごぼう

青森県のごぼうは、日本一の出荷量を誇り、国内出荷量の約4割を占めています。産地は、太平洋側、夏に「ヤマセ」とよばれる冷たい風が吹く上北地域に集中しており、同じ根菜類のながいもの輪作作物として、また健康野菜として注目されていることなどから、近年、生産が拡大しています。

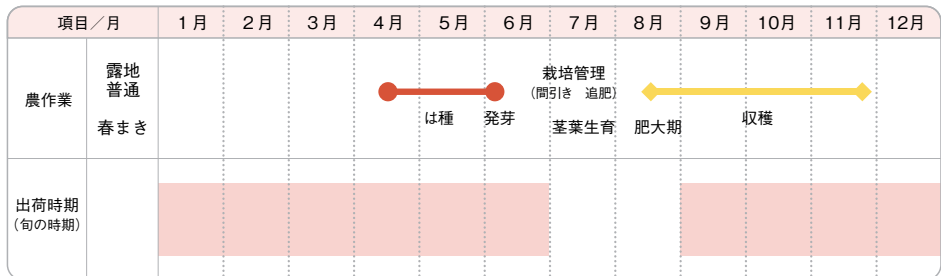
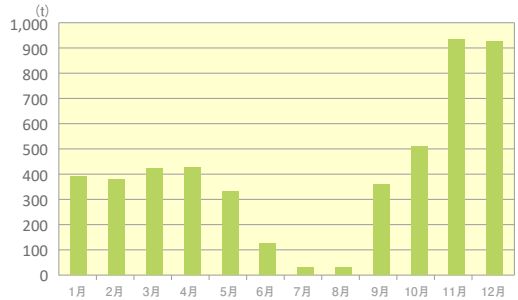
4月から6月に種をまき、9月から11月に収穫されたごぼうは冷蔵庫で保管され、ほぼ一年中、安定的に供給されています。

青森県のごぼうは、香りや風味が良く、繊維質が邪魔にならない程度に身が締まり、シャキシャキとした食感が特徴で、高品質なごぼうとして市場から評価を得ています。

全国の生産状況 (H29)

順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	青森	47,000	2,340
2	北海道	15,100	642
3	茨城	13,200	860
4	宮崎	8,950	647
5	群馬	7,370	433
	全国	122,800	7,950

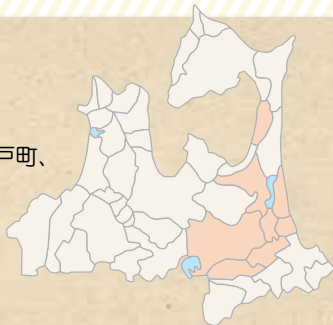
県産月別入荷量 (H29 東京都中央卸売市場)



主な産地

三八地域：五戸町、新郷村

上北地域：十和田市、東北町、横浜町、三沢市、六戸町、
おいらせ町、六ヶ所村



産地レポート

JAおいらせ やさい推進委員会ごぼう部会

◆産地の情報

地域の主力品目であるながいもの輪作作物として導入されたごぼうは、収穫作業の機械化や長期安定出荷が可能となる貯蔵施設の整備により作付面積を維持し、平成29年度の作付面積は460ha、販売額は14.2億円となっています。

部会では、平成23年からJA版のGAP手法を取り入れながら、生産から出荷まで安全・安心の確保に努めています。

日本一の産地としての誇りと責任を胸に、食感と香りと風味が自慢のごぼうづくりに取り組んでいます。

◆加工品開発で地域を元気に

地元の企業や生産者グループを中心に、ごぼう茶など多くの加工品が作られ、農家の所得向上につながっています。また、地元高校生による「ごぼうアイス」の製造・販売が行われるなど、ごぼうは地域に強く結び付き、地域を元気にしています。

◆県産ごぼうを全国へ

「生産者は、生産・出荷で終わりではなく、食べ方も提案しなければ」、「これからは専門家の意見を聞きながら、自分たちが生産するごぼうの食べ方を多くの人に知って食べてもらいたい」と語るのは、JAおいらせやさい推進委員会三沢地区ごぼう部会長の織笠光子さん。

ごぼうの消費拡大に向けて、全国規模のテレビ番組の取材を積極的に受け入れ、消費者との交流が広がっています。

ごぼうには抗酸化作用のあるポリフェノールが含まれていますが、水にさらすことで失われるので、きんぴらごぼうの前処理の際には、スポンジで皮の土を洗い落とし、皮付きのままラップに包み電子レンジで加熱すると良いこと、新聞紙で包んで保存する方法などを教えて頂きました。



収穫作業の様子



収穫直後のごぼう



ごぼうを手に笑顔の
織笠さん



春から秋まで本県の気候と地形を
生かして生産、出荷量は全国3位！



だいこん

青森県のだいこんは、県内の野菜生産で最も作付面積と出荷量が多い野菜で、主な出荷時期は6月から11月です。

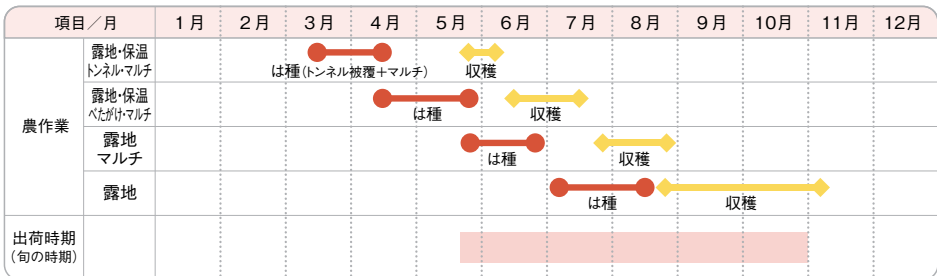
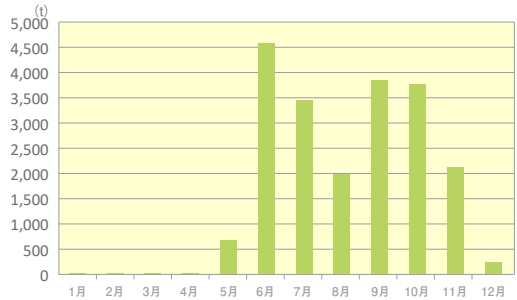
県内の生産は、上北地域（三沢市、東北町、六ヶ所村、おいらせ町）、中北地域（平川市、黒石市）、三八地域（新郷村）、下北地域（むつ市）等が主な産地で、県内の各地で産地を形成しています。

作型は、春は強い低温による食用部分の生育停滞を防ぐトンネル栽培、夏は涼しい高冷地での栽培、秋は露地栽培など、栽培する時期や場所によって品種や作型を変えて品質の良いだいこん生産を行っています。

全国の生産状況 (H29)

順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	北海道	161,400	3,460
2	千葉	130,700	2,750
3	青森	116,000	2,970
4	鹿児島	85,500	2,090
5	神奈川	72,000	1,130
	全国	1,087,000	32,000

県産月別入荷量 (H29 東京都中央卸売市場)

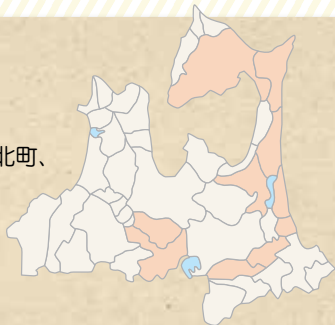


主な産地

春だいこん：三沢市

夏だいこん：平川市、黒石市、五戸町、新郷村、東北町、
六ヶ所村、三沢市、おいらせ町、
むつ市、東通村

秋冬だいこん：おいらせ町



産地レポート

南八甲田高原野菜生産組合・善光寺平地区
(JA津軽みらい)

◆産地の情報

南八甲田高原野菜生産組合・善光寺平地区は、南八甲田山系の南西に位置する標高約700mの高原で、だいこん、にんじん、こかぶなどの産地です。

善光寺平地区では、7月から10月までだいこんの出荷が行われており、5地区ある組合の中で、30、40代の生産者が多い活気のある産地です。

組合全体のだいこん作付面積は39ha、生産者数27名で、夏だいこんの指定産地となっており、東北、関東などの市場へ出荷されています。

◆高品質安定生産に向けた取組

若手農業者の奈良優さんは、高原特有の冷涼な気候を生かし、緑肥等を輪作体系に組み込み、病害虫の適期防除を行うことで高品質安定生産に取り組んでいます。

5月から7月まで7、8品種を組み合わせ3日毎に「は種」を行い、苗を間引いて生育を揃え、適期に収穫することを基本に、2L規格の長くて太くてずしりと重い(1本1.5kg相当) 齊一なだいこんを継続的に出荷しています。

収穫作業は家族とパートの皆さんとで手掘りを行い、機械と人手による洗浄を組み合わせ、だいこん1本、1本に愛情を込めて丁寧に出荷しています。

そのだいこんは、みずみずしく、甘みが強いのが特徴です。



人手による収穫作業



機械と人手による洗浄



自信を持って出荷する奈良優さん



全国4位の出荷量！
7月が出荷ピーク！

にんじん



青森県のにんじんは、柔らかくて甘みがあり、保存性の高さにも定評があります。

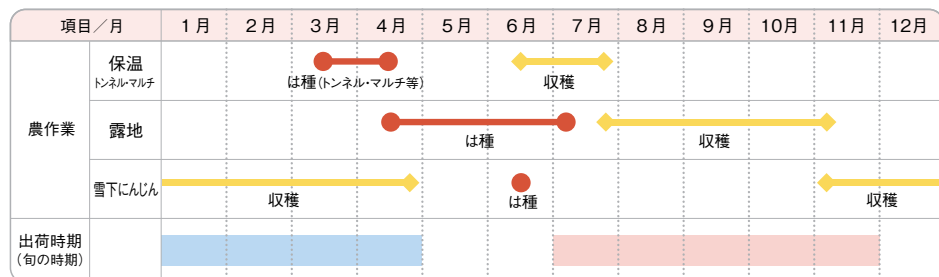
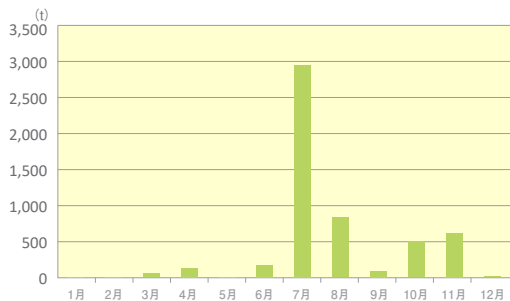
県内の主な産地はおいらせ町、三沢市、六戸町、東北町で、関東の出荷が終わり北海道の出荷が本格化する前の7月が出荷のピークとなっています。

また、雪の下から掘り出し、冬の寒さに当てることで甘みや栄養価が増した雪下にんじんが、深浦町を中心に栽培されています。

全国の生産状況 (H29)

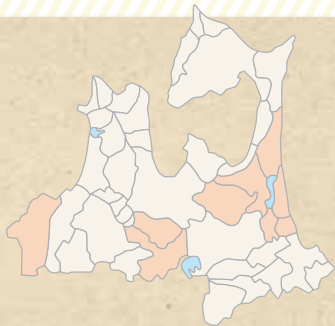
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	北海道	179,800	5,090
2	千葉	94,800	3,050
3	徳島	49,800	978
4	青森	34,900	1,160
5	長崎	28,300	851
	全国	533,700	17,900

県産月別入荷量 (H29 東京都中央卸売市場)



主な産地

春夏にんじん：七戸町、東北町、六ヶ所村、三沢市、
六戸町、おいらせ町
秋にんじん：平川市、黒石市、七戸町、東北町、
六ヶ所村、おいらせ町
冬にんじん：おいらせ町、深浦町



産地レポート

南八甲田高原野菜生産組合・大木平地区
(JA津軽みらい)

◆産地の情報

南八甲田高原野菜生産組合は、南八甲田山系の南西に位置する標高350m～750mの高冷地で、夏季冷涼な気象条件を生かして、だいこん、にんじん、レタスなどを生産しています。このうち、にんじんの作付面積は33ha、生産者数は24名となっています。

標高約500mの高原にある大木平地区では、にんじん栽培の歴史は40年以上になります。

この地区では、6月から7月にかけては種し、9月下旬から11月にかけて収穫する秋にんじんのほか、7月下旬には種して雪解け後の4月から5月に収穫する春掘にんじんの2つの作型で栽培しており、秋にんじんは昭和51年に指定産地となっています。

◆甘いにんじんを作るために

地区でもにんじんの作付面積の多い谷川強さんは、にんじんのほかにだいこんやレタス、こかぶも作付しており、これに緑肥（ハイオーツ）を組み合わせて輪作し、病害虫の抑制や地力の維持に努めています。

また、甘いにんじんになるように、有機質肥料を施用しています。この有機質肥料には、大木平地区のある平川市の畜産農家産の堆肥を用いており、食味の向上へのこだわりだけでなく、地域資源を有効利用する仕組みも構築しながら栽培しています。

谷川さんの一番のオススメの食べ方は、細切りにして卵とじ、だそうです。また、天ぷらや、生の千切りをサラダにしても、甘みが感じられて美味しくいただけるそうです。



秋の収穫間際のにんじん畑



収穫の様子



谷川さんと採れたたのにんじん



北海道・長崎の2大産地の端境期を
ねらった中堅産地、8～9月に出荷！



ばれいしょ

ばれいしょは、全国的には秋から春までは北海道、春には九州地方からの出荷が多く、青森県はこれら産地の端境期に出荷し、主な出荷時期は7月から9月です。また、主な産地は、横浜町、三沢市、東北町、六ヶ所村などで、太平洋側で栽培が盛んです。

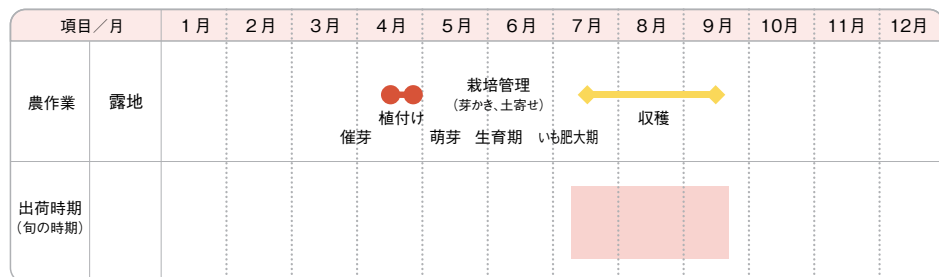
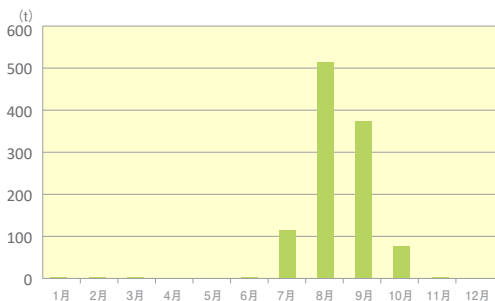
品種は、煮崩れの少ないメークインが多く作付けされています。

特徴的な取組としては、大間町の奥戸（おこっぺ）地区で主に栽培されることからその名が付いた「オコっぺいも」があります。皮色が黄色、形が偏卵形の大きないもで、煮えやすく肉質はホクホク系で皮ごとふかすと皮がぷちんと弾け、ほっこりした食感は男爵いものそれと似ていますが、さらにサラサラしているのが特徴です。

全国の生産状況 (H29)

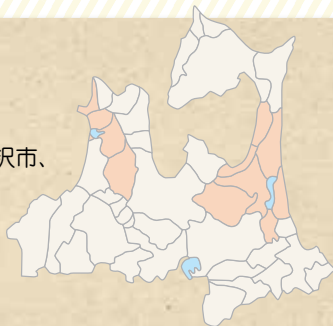
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	北海道	1,678,000	51,300
2	鹿児島	77,800	4,410
3	長崎	77,400	3,640
4	茨城	37,500	1,550
5	千葉	24,700	1,210
6	青森	13,800	751
	全国	1,996,000	77,200

県産月別入荷量 (H29 東京都中央卸売市場)



主な産地

西北地域：五所川原市、中泊町
 上北地域：七戸町、東北町、六ヶ所村、横浜町、三沢市、
 六戸町、野辺地町



産地レポート

株式会社 黄金崎農場（岩木山農場）

◆産地の情報

ばれいしょは、冷涼な気候を好み、年による豊凶の差が小さく、栽培期間が3～4ヶ月と短期間で後作の導入ができることから、経営に有利な品目です。(株)黄金崎農場では、昭和52年から加工用ばれいしょの作付けを開始し、今では40品種に及ぶ多種多様な品種を取り扱っています。



ばれいしょの栽培面積は約100haで、ポテトチップ用を中心に、コロケ用やサラダ用など、多岐にわたり生産しています。



佐々木代表取締役

◆全国各地に出荷されている種いも

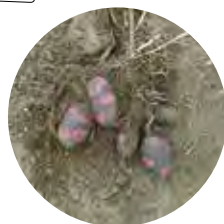
ばれいしょは、厳しい検査に合格した種いもを畑に植付けして作られます。(株)黄金崎農場は九州地方を中心に、ほぼ全国に出荷し、大手製菓会社や種いも販売会社等と取引を行っています。

また、他の産地では作られていない珍しい品種の種いもも作っています。

ばれいしょはいろいろあって本当に面白い！



注目されている品種の一つ
「DESTROYヤー」





太平洋からの冷たい風が吹き付ける
ヤマセ地帯は、夏場のこかぶ栽培に
最適で出荷量は全国3位！



こかぶ

かぶには聖護院かぶ、天王寺かぶなどの大型のかぶ、日野菜かぶ、赤かぶなど主に漬物に用いるかぶなど、大きさや用途によって多くの種類がありますが、青森県の主力はこかぶです。

夏場でも涼しい気候の中で生産される青森県のこかぶは、皮が薄く色白で、鮮度が良いと好評を得ています。

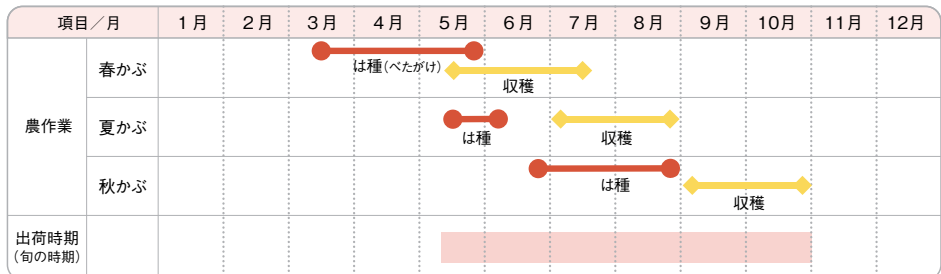
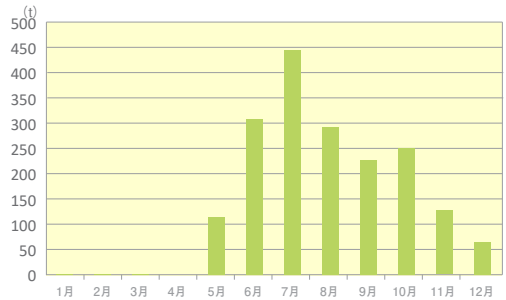
皮をむいて生で食べると、梨のようなみずみずしさと食感、ほのかな甘みが感じられます。

全国の生産状況 (H29)

順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	千葉	31,000	941
2	埼玉	14,300	453
3	青森	6,510	193
4	滋賀	4,360	196
5	京都	4,320	162
	全国	98,800	4,420

※「かぶ」のデータ

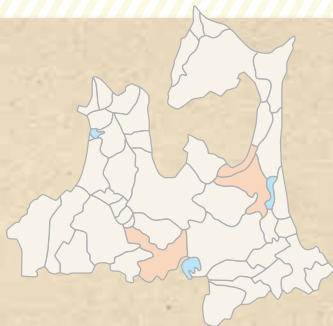
県産月別入荷量 (H29 東京都中央卸売市場)



主な産地

中南地域：平川市

上北地域：東北町、野辺地町



産地レポート

JAゆうき青森野菜振興会こかぶ部会

◆産地の情報

野辺地町は、ヤマセの影響により、夏季に低温・少照となりやすい上に、耕地面積も少ないことから、農業振興のためには収益性が高く、しかも女性や高齢者が生産に参画しやすい軽量野菜の取組が必要でした。

そこで、昭和58年からこかぶ栽培への取組が始まりました。



◆生産・栽培上の特色

商品力の強化策として、周辺地域に多い畜産農家で生産される完熟堆肥の投入や、緑肥による健康な土づくりと、被覆資材を活用した農業節減を基本とした栽培基準を作成し、安全・安心な葉つきこかぶの生産を進めています。

また、生産コストの低減と栽培技術の向上を図るため、定期的に現地指導や情報交換を行い、全国に誇れる品質の確保に日々努めた結果、みずみずしさあふれる高品質な葉つきこかぶが生産できるようになりました。

◆出荷の工夫・販売戦略

品質の低下を極力抑えるよう、収穫は気温の低い夜明け前から行います。収穫後の品質保持のため、農家は、洗浄機によるスピーディな洗浄と調製作業を行って、できるだけ速く出荷しています。JAでは冷蔵施設や真空予冷施設を整備し、とれたてのおいしさを食卓に届ける取組を実践しています。これら徹底した品質管理によって、市場では「夏場の品質日本一」と非常に高い評価を得ており、他産地に比べ高価格で取引されています。

平成19年11月に、地域ブランド化推進の取組として「偏東風と大地の恵み野辺地葉つきこかぶ」を商標登録し、平成24年8月には「野辺地葉つきこかぶ」の名称で地域団体商標に登録しました。

さらに平成29年には新しい出荷施設が完成し、野辺地町の特産品として更なるブランド化を目指しています。



平成29年に完成した出荷施設



東京都中央卸売市場の7～8月入荷の トマトは、青森県産がシェア1位！



ト マ ト

青森県のトマト生産は、昭和51年から本格的な栽培が始まりました。平成29年度の全国生産状況では出荷量で全国12位となっています。

夏場の生産が中心で、特に東京都中央卸売市場への出荷が多く、7月から8月は青森県産がシェア1位です。昼夜の気温差が大きい青森県で生産されるトマトは、味が良く、日持ちの良さにも定評があります。

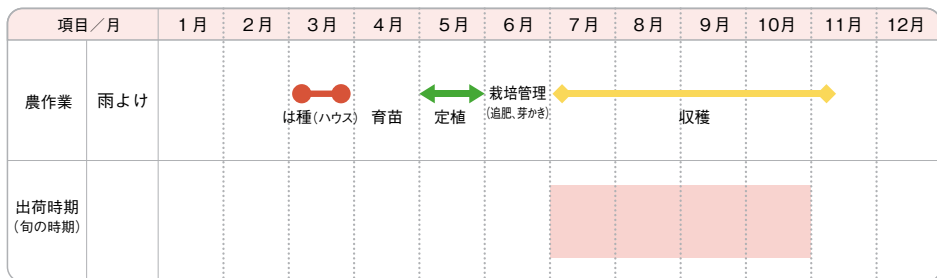
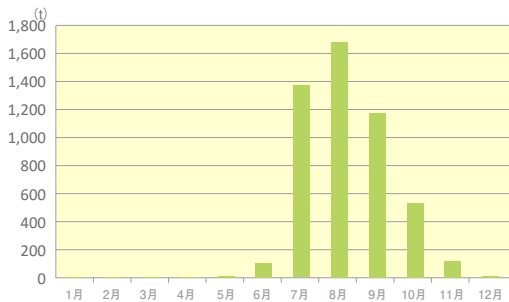
県内各地で産地を形成していますが、主な産地は、東青地域（青森市、蓬田村）、中南地域（弘前市、平川市、黒石市）、三八地域（南部町、三戸町）、西北地域（五所川原市、つがる市）、上北地域（七戸町）等です。

全国の生産状況 (H29)

順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	熊本	124,000	1,260
2	北海道	57,100	854
3	茨城	45,600	912
4	愛知	43,700	511
5	千葉	35,600	805
12	青森	15,400	380
	全国	667,800	12,000

※ミニトマト、加工用を含む

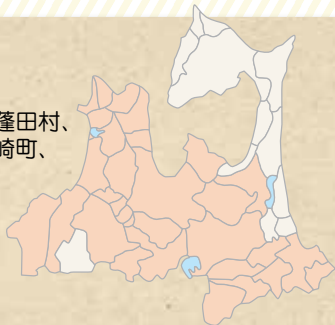
県産月別入荷量 (H29 東京都中央卸売市場)



主な産地

夏秋トマト：青森市、外ヶ浜町、平内町、今別町、蓬田村、弘前市、平川市、黒石市、大鰐町、藤崎町、田舎館村、八戸市、田子町、五戸町、南部町、三戸町、新郷村、階上町、深浦町、五所川原市、鱈ヶ沢町、つがる市、中泊町、鶴田町、板柳町、十和田市、七戸町、東北町

冬春トマト：南部町、三戸町



産地レポート

J A 青森 トマト部会

◆産地の情報

現在、J A 青森管内の生産者は84名で、作付面積は約13haとなっています。夏でも比較的涼しく、寒暖差があるため、甘くて味がよいのが特徴です。管内で生産されたトマトは主に関東へ出荷されています。



蓬田村のトマト団地



◆環境にやさしいトマトづくり

J A 青森管内のトマト部会員全員がエコファーマーを取得しており、おいしいだけでなく、環境にやさしい安心・安全なトマトづくりに励んでいます。

◆地域ぐるみでのトマト生産

「人との距離が近く、周りの農家が色々教えてくれた。農業が始めやすい地域だと思う」と語るのは、蓬田村で栽培をしているJ A 青森トマト部会長の津島鉄平さん。津島さんはもともと農家ではありませんでした。就農時、村の農家の方に生産技術等をたくさん教わったそうです。

トマト部会では年に数回現地講習会を行い、部会員同士の情報共有や意見交換等を行っています。

今後の目標は、おいしさはそのままに、収量にもこだわったトマト生産をしていくことだそうです。



J A 青森トマト部会長 津島鉄平さん



人気上昇中！
東京都中央卸売市場の
8月入荷量全国2位！



ミニトマト

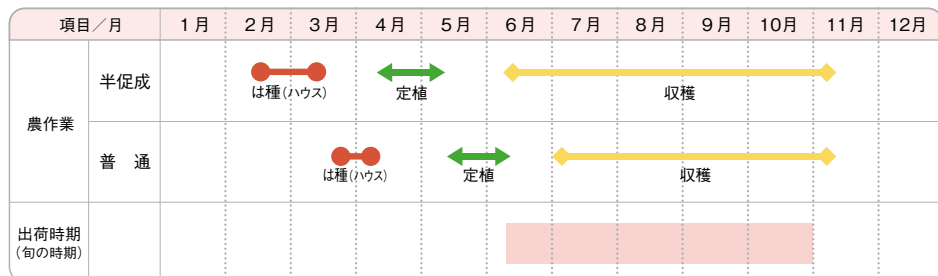
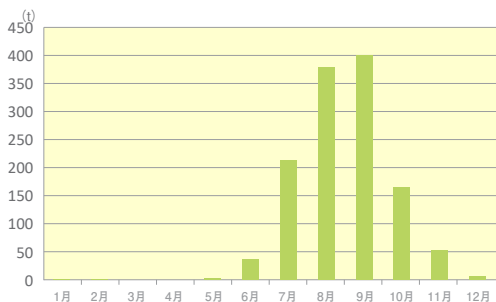
ミニトマトは近年、サラダの付け合わせなどに多く利用されるようになり、消費が急増していることに加え、近年の高値販売や高齢化により大玉から切り替えが進んでいることから、全国的に作付面積が微増しています。

青森県では、転作田への作付や技術面の取り組みやすさから生産が拡大しており、平川市・大鰐町・田舎館村（中南地域）、つがる市（西北地域）、八戸市（三八地域）、青森市（東青地域）が主な産地となっています。

全国の生産状況 (H29)

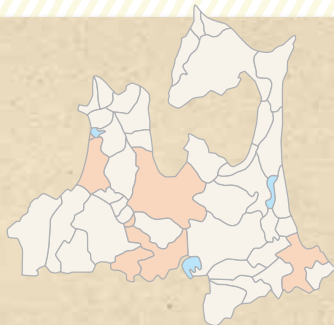
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	熊本	31,100	408
2	北海道	13,900	289
3	愛知	12,800	141
4	宮崎	8,500	115
5	茨城	7,060	196
15	青森	2,210	52
	全国	131,900	2,480

県産月別入荷量 (H29 東京都中央卸売市場)



主な産地

東青地域：青森市、
 中南地域：平川市、大鰐町、田舎館村
 三八地域：八戸市
 西北地域：つがる市



産地レポート

中南地域

◆産地の情報

産地はＪＡつがる弘前・ＪＡ津軽みらいが管内のりんごや米づくりがさかんな中南地域です。主に関東、東海地方へ出荷されています。平成29年の管内ＪＡの部会員は183名、栽培面積は約18haとなっています。

安定したミニトマト需要に加え、赤系品種のサンチェリーピュアを主体に、新たに産地にあった食味のよい品種の導入を検討しています。



◆伸び盛り産地

ミニトマトは技術的にも比較的簡単で軽量なことから、新たに農業に取り組む方や年配の生産者でも導入しやすい作物です。また、りんごや水稻の複合品目としての導入や、ミニトマトを経営の柱として選択する新規生産者の増加により、年々生産が拡大しており、まさに伸び盛り産地です。

◆関係者一体となった産地づくり

産地では県やＪＡ等の指導機関はもちろん、ベテラン生産者が、新たにミニトマトづくりに取り組む生産者や、若手生産者の栽培技術や経営についての相談役を担っています。

生産者同士で相談しあえるようなコミュニティづくりをすることで、新たに農業やミニトマト栽培に取り組む生産者の不安を解消し、取組の後押しをしています。

このような、産地関係者が一体となって取り組む姿勢が、産地の発展とブランド化に繋がっています。





メロンの出荷量は全国4位
 値頃感と高い糖度がセールスポイント!



メロ ン

青森県のメロンは、ほとんどが雨除けトンネルで栽培され、ネット系メロンを中心に、白皮品種、黄皮系品種を組み合わせることでバランスのとれた栽培を行っています。

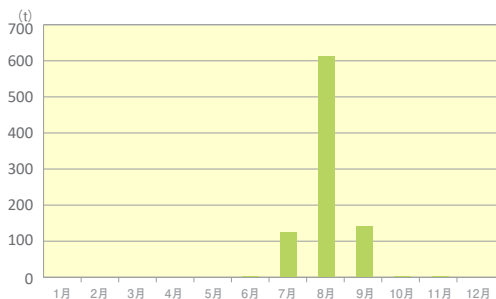
出荷量は全国4位と上位に位置しています。出荷先は東海・近畿地方が多く、8月がピークとなっています。

青森県の主力品種である「タカミ」は、果肉が緑色で厚く、肉質はやや硬めで日持ち性が良く、糖度が16度前後と極めて高いという特徴を持っています。

全国の生産状況 (H29)

順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	茨城	37,400	1,330
2	北海道	22,800	1,050
3	熊本	19,200	925
4	青森	9,140	519
5	山形	9,010	533
	全国	140,700	6,770

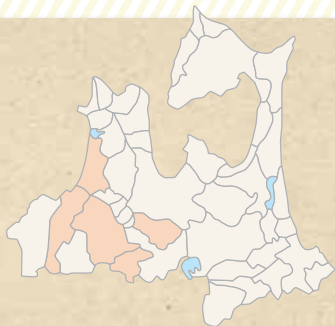
県産月別入荷量 (H29 東京都中央卸売市場)



項目/月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
農作業												
			●—● は種(ハウス)		←→ 定植				←—● 収穫			
出荷時期 (旬の時期)												
			●—● は種(ハウス)		←→ 定植				←—● 収穫			

主な産地

中南地域：弘前市、黒石市、大鰐町
 西北地域：鱒ヶ沢町、つがる市



産地レポート

つがる市

◆産地の情報

主力産地のつがる市は、本県の作付面積の7割以上を占めています。つがる市の西側に広がる屏風山砂丘地域は、水はけが良いこと、昼夜の温度較差が大きいことから、メロン栽培に最適な環境条件を有し、全国有数のメロン産地となっています。



自慢のメロンをぜひ味わってください!

◆優れた栽培技術

環境条件と並んで重要なのは栽培技術です。40年以上にわたって培われた栽培技術は地域にとって大きな財産となっています。また、メロンは手間暇を掛けないと品質の良いものができることから、生産者は惜しみない努力を続けています。



若手生産者の樋口成紀さん



◆JAごしょつがる木造総合支店における共同選別・出荷

JAごしょつがる木造総合支店メロン部会では、平成25年3月、高画素CCDカメラセンサー付選果機を新たに導入しており、等階級の格付け及び糖度測定をこれまでより速く正確にできるようになったことで、糖度表示等による付加価値の高いプレミアムメロンの出荷が可能になりました。

平成28年度からはJAつがるにしきたのメロンもこの選果機を利用することとし、平成29年に出荷規格の統一と、販売の一元化のため、「つがるメロン協議会」を設立し、協議会専用出荷箱による出荷を開始しました。

◆信頼される産地づくり「つがるブランド」

つがる市では、市内で生産されたメロン等8品目を対象に、エコファーマーの取得等独自の基準を設けて「つがるブランド」に認定しています。

認定されたメロンは、つがるブランドとして各地へ出荷されています。



つがる市農産物
イメージキャラクター
「つが〜るちゃん」



屏風山地域が主産地！
 昼夜の気温差が大きく水はけが
 良いため糖度抜群！



すいか

青森県の主産地は、鱒ヶ沢町からつがる市に広がる日本海沿岸の屏風山（びょうぶさん）地域で、県内の8割以上が生産されています。

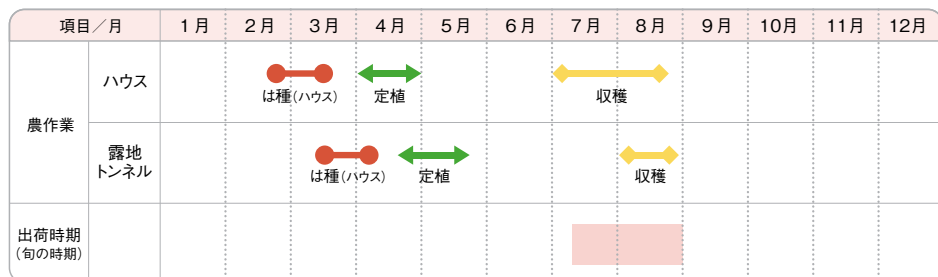
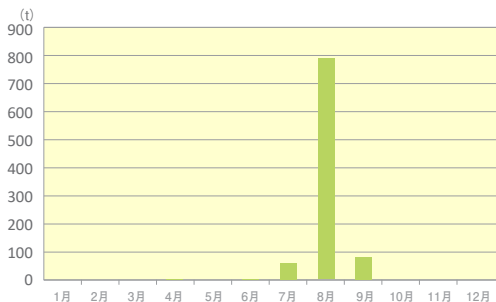
8月を中心に、関東、東海、近畿地方向けに出荷されています。

品種は縞王系、縞無双、祭りばやしを主体に、姫甘泉、ひとりじめなどの小玉すいか、枕形の紅まくらなどが導入され、いずれも果肉の発育が良く、肉質がきめ細かくしまっており、甘さ抜群で日持ちも優れています。

全国の生産状況 (H29)

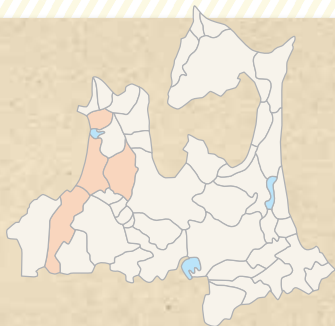
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	熊本	44,300	1,400
2	千葉	36,100	1,060
3	山形	28,200	837
4	鳥取	18,800	388
5	長野	17,800	349
13	青森	7,310	300
	全国	284,400	10,200

県産月別入荷量 (H29 東京都中央卸売市場)



主な産地

西北地域：五所川原市、鱈ヶ沢町、つがる市



産地レポート

屏風山野菜生産組合（つがる市木造館岡）

◆産地の情報

屏風山地域で本格的なすいか栽培が始まったのは、昭和30年代半ばといわれています。地域特有の気候（昼夜の温度較差が大きい）と水はけの良い土地が、糖度を格段に高め、甘くてジューシーだと評判になりました。

昭和40年には、安定した品質・生産・出荷量を確保するため「屏風山野菜生産組合」が組織されました。



◆夏場の産地として市場から高い評価

主力品種は「津軽丸」、「羅皇（らおう）」、「紅まくら」で、出荷時期は7月中旬～8月末となっています。名古屋、東京などの市場に出荷され、夏場の産地として市場から高い評価を得ています。

ブランドの名に恥じない、確かな「屏風山西瓜」をお届けします！

◆ブランドすいか「屏風山西瓜」

昭和44年に「屏風山西瓜」で商標登録し、ブランド化に努めてきました。

味を凝縮させるため1株に1～2個だけ着果させるなど、おいしいすいかの生産にこだわっているほか、インターネットによる栽培履歴の公表や、組合員全員のエコファーマー取得など、安全・安心な農業を目指しています。



組合長 横山治彦さん

【topic】

屏風山地域
とは…



鱈ヶ沢町から十三湖までの長さ約30km、海岸から内陸3～4kmの地帯を指し、7,500haにも及びます。江戸時代に砂防のため黒松が植林され、その様相が屏風のようにして「屏風山」と称されています。



三八地域と中南地域に生産が集中！
関東向けの出荷が大半を占める！



きゅうり

きゅうりは、形状、鮮度に加えて、色、光沢など外観が重視される傾向が強く、青森県ではブルームレスきゅうり（きゅうりの表面の白い粉がないもの）が主流となっています。

近年は、味にこだわったブルームきゅうりや青森県に古くから伝わる糠塚きゅうりなど、こだわりの個性派も出荷されています。

県内の主な産地は、五戸町、十和田市、弘前市などとなっています。

『糠塚きゅうり』とは

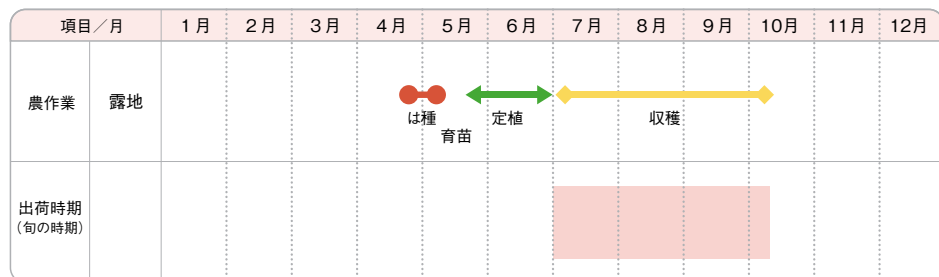
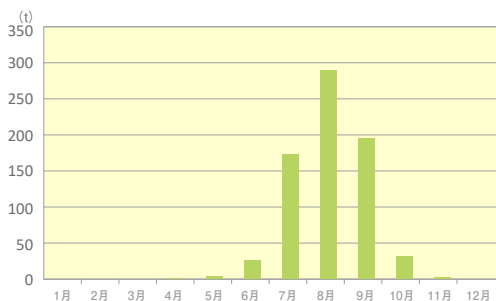
八戸地方で6月下旬～8月のお盆にかけて出回るシベリア系の在来種。藩政時代に持ち込まれ、八戸市の糠塚地区で栽培されたのが始まりとされています。

短太でイボが黒く堅い果皮ですが、中身は歯切れの良いみずみずしい食感です。

全国の生産状況 (H29)

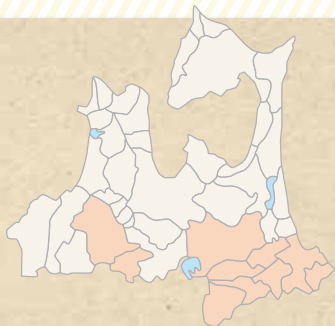
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	宮崎	63,700	681
2	群馬	50,000	863
3	埼玉	42,200	632
4	福島	35,700	696
5	千葉	30,700	478
26	青森	4,030	157
	全国	483,200	10,800

県産月別入荷量 (H29 東京都中央卸売市場)



主な産地

夏秋きゅうり：弘前市、大鰐町、八戸市、田子町、
五戸町、南部町、三戸町、新郷村、
階上町、十和田市



産地レポート

JA八戸野菜総合部会きゅうり専門部

◆産地の情報

三八地域は県内一の夏秋きゅうりの産地です。その産地を支えるJA八戸の部会は、合併前の旧川内農協や旧新郷村農協に昭和60年代に設立されました。平成30年の部会員数は104名、共販面積は10.3haとなっています。特に新郷村は若手生産者が多く、県内一の産地を牽引しています。

主な作付品種は「大望」で約8割、他「ほっきょう」が約2割を占めます。生産されたきゅうりは、関東方面に向けて出荷されています。



新郷村の若手生産者 坂根さん



栽培講習会の様子

◆良いものをより多く

部会では「単収10t以上」を目標に、栽培講習会や管内視察研修、品種比較試験を実施しています。

栽培講習会は、その地域で多く作付されている品種の種苗メーカーと合同で開催し、品種にあった栽培管理の周知に努めています。

また、収穫時期は作業に追われ、管理作業が後回しになり、病気が発生する原因になるので、品種比較試験では、労働力が少ない生産者でも品質を落とすことなく生産できる品種の選定を目指しています。



高齢者や女性が生産を支える！
出荷量は全国10位も夏場の首都圏の
需要に欠かせない産地！



ピーマン

青森県のピーマンは、7月から10月に出荷される夏秋ピーマンが中心で、青森市周辺の東青地域や県南部の三八地域などに産地が形成されています。

収穫は、すべて手作業となることから、多くの収穫労働力を必要としますが、果実が軽いことから、比較的高齢者や女性が取り組みやすい品目として定着しています。

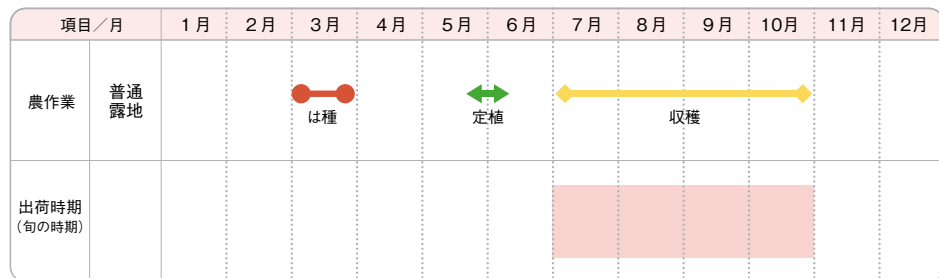
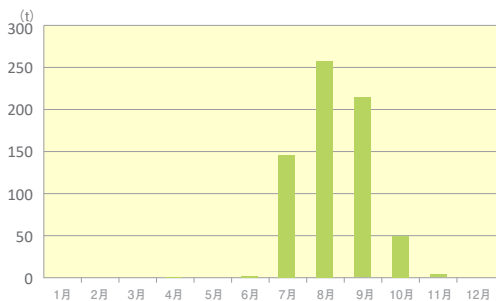
青森県産は、8月に出荷ピークを迎え、東京都中央卸売市場では全国4位の出荷量を誇ります。

全国の生産状況 (H29)

順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	茨城	33,200	526
2	宮崎	26,200	307
3	高知	13,300	133
4	鹿児島	11,700	150
5	岩手	6,180	184
10	青森	2,570	89
	全国	129,800	3,250

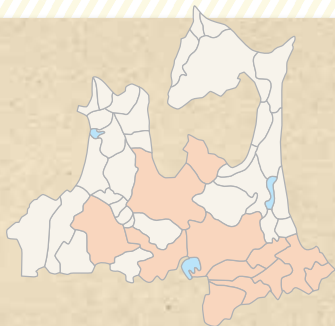
※ししとうを含む

県産月別入荷量 (H29 東京都中央卸売市場)



主な産地

夏秋ピーマン：青森市、平内町、弘前市、平川市、
八戸市、田子町、五戸町、南部町、
三戸町、新郷村、階上町、十和田市



産地レポート

JA八戸 野菜総合部会ピーマン専門部

◆産地の情報

JA八戸のピーマン専門部の平成30年の生産者数は316名で、作付面積は30haとなっています。露地の夏秋ものがメインですが、トンネルの半促成栽培、一部でハウスの促成栽培もあり、作期の幅が広い産地です。

平成22年には夏秋ピーマンの指定産地に指定され、県内随一の産地が形成されています。



◆良品・安定生産に向けて

JAでは、栽培技術向上のための講習会や出荷規格統一のための目揃い会などを定期的で開催し、収量や品質向上を後押ししていますが、そこには常に多くの参加者があり、熱心に技術を磨いています。

また、新品種の導入にあたっては、品種の試作試験を行い、産地にあった品種を検討するなど、良品多収生産に向けて産地一体となって取り組んでいます。



ピーマン専門部部長の栴沢さん

◆みんなで産地を盛り上げる

ピーマン専門部部長の栴沢さんは「自分だけよくてもダメ。みんなの力で八戸のピーマン産地となっているから」と笑顔で力強くお話してくださいました。

栽培講習会や目揃い会は会員の情報共有の場になっており、お互いが交流しながら切磋琢磨し、技術を磨くことで産地の活性化にもつながっています。



冬場の日照時間が長い太平洋側が主産地
 夏季冷涼な気候を生かした
 夏秋いちごも生産！



いちご

いちごには、11月から6月にかけて収穫される「冬春いちご」と7月から10月にかけて収穫される「夏秋いちご」があります。

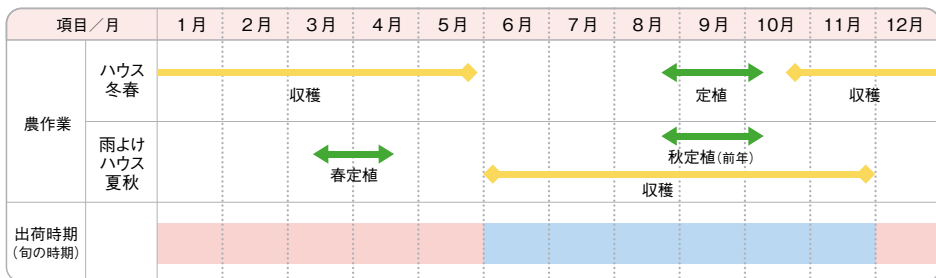
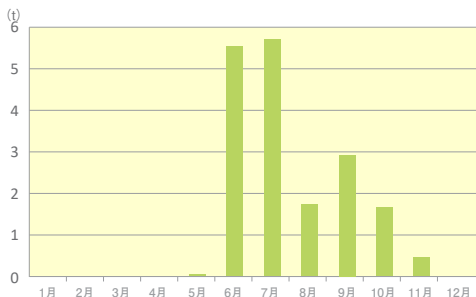
青森県のいちご生産は、「冬春いちご」が多くなっており、冬場の日照時間が長い太平洋沿岸の八戸市が主産地で、出荷は県内市場が中心となっています。

また、近年、青森県の夏季冷涼な気候を生かした「夏秋いちご」が、中南部地域と下北地域を中心に県内各地で生産されています。

全国の生産状況 (H29)

順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	栃木	23,600	554
2	福岡	16,900	455
3	熊本	10,300	316
4	静岡	9,950	303
5	愛知	9,410	266
26	青森	922	87
	全国	150,200	5,280

県産月別入荷量 (H29 東京都中央卸売市場)



主な産地

冬春いちご：田舎館村、八戸市、おいらせ町

夏秋いちご：平川市、黒石市、田舎館村、東通村、むつ市



産地レポート

ふゆはる
三八地域の冬春いちご生産

◆産地の情報

三八地域では、八戸生産組合とJA八戸振興野菜専門部の2つ組織を中心に、冬春いちごを10月下旬から6月中旬にかけて生産しています。

冷涼な気候で生産される「八戸いちご」は、県外の温暖な地域に比べて、熟すまでの時間がかかるため、うま味が凝縮したおいしさです。

毎年11月に「八戸いちごマルシェ」が開催され、いちごやスイーツの販売、お菓子づくり体験等が行われています。ビタミンCが豊富で、甘みと酸味のバランスが良い「八戸いちご」をどうぞ召し上がれ！

◆八戸生産組合

36名の生産者がいちご販売額2億円達成の目標を掲げて「さちのか」、「とちおとめ」、「紅ほっぺ」等のいちごを年間60万パック出荷しています。木村組合長を中心に、土壌分析に基づく土づくり、病害虫防除や適切な保温に努め、高品質ないちご生産を行っています。また、朝収穫の徹底と1段詰めパックの利用により、いちごが傷むことなく消費者に届くよう取り組んでいます。

八戸市、弘前市、青森市の市場に出荷され、販売先は主に県内となっています。

◆JA八戸振興野菜専門部

11名の生産者が「さちのか」を年間20万パック出荷しています。JAでは風穴部会長を中心に、短日処理や促成栽培、半促成栽培を組み合わせ、継続出荷ができるように取り組んでいます。最近では、温暖化で被害が増えるためのハダニ防除の天敵利用を進めるほか、収量向上のための二酸化炭素ガス施用や土壌還元消毒、新品種「よつぼし」の導入に試験的に取り組むなど、生産技術の改善にも努めています。

生産したいちごは、八戸市、五所川原市の市場に出荷されています。



組合長の木村さん



部会長の風穴さん





転作作物として定着！
7月から10月まで、安定した出荷で
需要に応える！



えだまめ

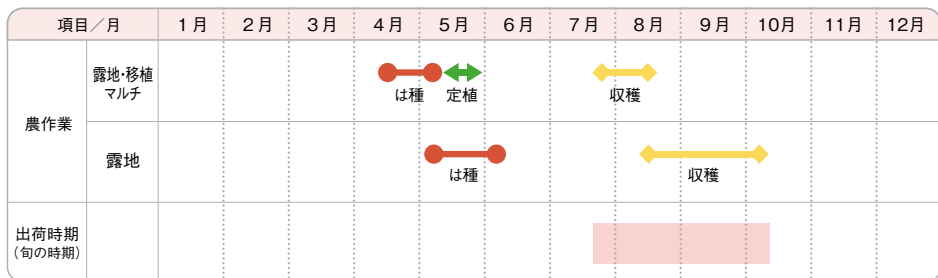
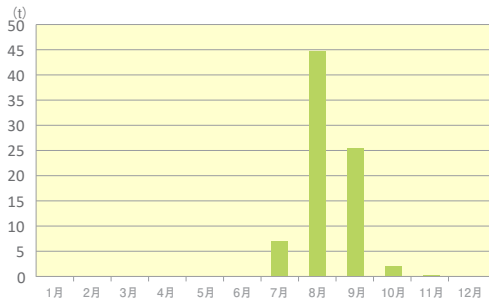
青森県のえだまめは、田子町、弘前市、南部町などで転作田を中心に栽培されています。品種を組み合わせることで作付けし、7月から10月まで出荷しています。

8月下旬以降は、食味の良い在来種の「毛豆」や、「毛豆」から生まれた「あおり豊丸」、「あおり福丸」が出荷されます。莢に茶色のフサフサした毛があり、粒がとても大きく、味が濃いのが特徴です。

全国の生産状況 (H29)

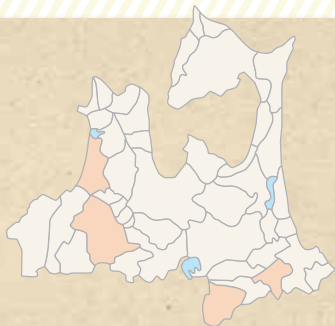
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	北海道	7,250	1,100
2	群馬	5,670	1,120
3	千葉	5,150	820
4	山形	4,720	1,480
5	埼玉	4,440	711
13	青森	500	282
	全国	51,800	12,900

県産月別入荷量 (H29 東京都中央卸売市場)



主な産地

中南地域：弘前市
三八地域：田子町、南部町
西北地域：つがる市



産地レポート

JA八戸野菜総合部会豆類専門部田子支部

◆産地の情報

田子町でのえだまめの栽培の歴史は古く、40年以上になります。現在は、JA八戸の田子支部として生産しており、生産者数58名、栽培面積が約18haの産地となっています。

田子支部では、生産したものを単に販売するだけではなく、お客様のニーズ（市場の要望）にしっかり応えることを大切にしています。

◆県認証の特別栽培の取組

平成12年の県の認証制度の開始当初から、市場からの要請に応じて、農業や化学肥料の使用量を通常の5割以下に減らして生産する特別栽培に取り組んでいます。

◆施肥と病害虫対策

田子町は畜産も盛んなことから、地域内循環を目指して、町内で生産された良質な堆肥を施用しているほか、食味を良くするために、有機質肥料を活用しています。

また、ダイズシストセンチュウの密度が高まった時には、対抗植物（クリムソクローバー）をすき混むことで、密度低減を図り被害を軽減しています。花が咲く5月中旬には、深紅のじゅうたんのように真っ赤な花が一面に広がります。

◆独自の仕立と丁寧な収穫・調製

田子支部のえだまめは、主に枝付きのままに関東の市場に出荷され、その甘みの強さと鮮度の良さから、高値で取引されています。枝付きで出荷するには、茎の長さや太さを調節する独自の仕立ができればなりません。

また、収穫と調製は、傷みを無くするため全て手作業で行い、丁寧に洗浄した後に、一つ一つ葉を落として選別します。

出荷基準を守ったえだまめだけが、生産者の名前付きの専用の袋に詰められ出荷されます。



えだまめ畑と生産者の皆さん



県認証の特別栽培の取組ほ場



対抗植物(クリムソクローバー)



手作業での調製



温暖で夏季冷涼な気候を好む！
東京都中央卸売市場の
9月入荷量全国2位！



さやいんげん

緑色野菜で栄養価が高いうえ用途が幅広いため、消費が伸びています。

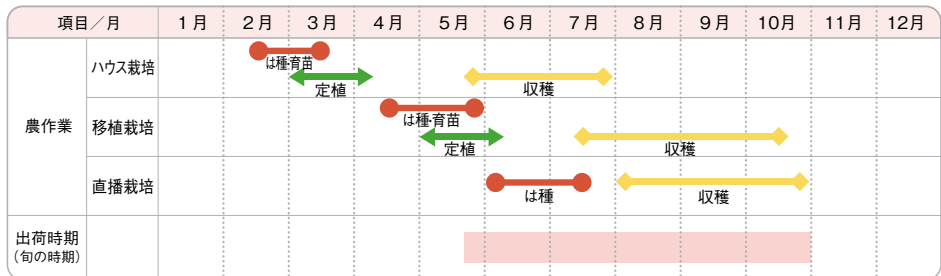
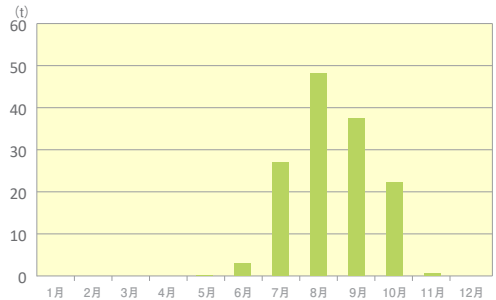
県内及び東北向けは平莢、東京向けは丸莢が主体となっています。代表的な品種として、平莢品種では「マンズナル」、丸莢品種では「スーパースティヤー」が栽培されています。

夏場に生産され、東京都中央卸売市場の9月の入荷量では、本県産が福島県に次ぐ全国2位を誇っており、国産の約1割を占めます。

全国の生産状況 (H29)

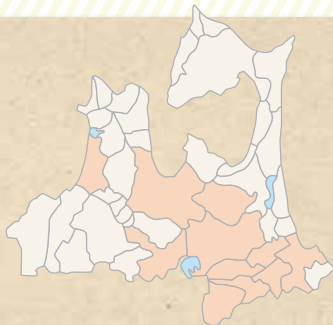
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	千葉	4,650	485
2	鹿児島	3,200	370
3	北海道	2,960	440
4	福島	2,470	499
5	沖縄	1,770	175
12	青森	484	108
	全国	26,400	5,590

県産月別入荷量 (H29 東京都中央卸売市場)



主な産地

東青地域：青森市
 中南地域：平川市
 三八地域：八戸市、田子町、五戸町、南部町、
 三戸町、新郷村
 西北地域：つがる市
 上北地域：十和田市、七戸町



産地レポート

J A 八戸



◆産地の情報

八戸市、五戸町、南部町を中心に生産者136名がさやいんげんの栽培に取り組み、作付面積は6.7haで、県内1位の産地となっています。

作型は、移植栽培と直播栽培の2種類で、収穫・出荷は5月下旬～10月下旬まで行われています。

鮮度管理を徹底し、新鮮なさやいんげんを常に出荷するよう部会員一丸となって取り組み、市場から高評価を得ています。



◆鮮度の良い物をしっかり出荷

「さやいんげんは、高うねなど排水対策を徹底した水はけの良い畑、堆肥等による土づくり、生育に合わせた適正施肥が重要」「鮮度を保つため、出荷のピーク時には朝夕の2回採りを必ず行う」「水分が蒸散しないように収穫から選別、段ボールに詰めるまでの管理が重要」と話

してくださったのは J A 八戸野菜総合部会キヌサヤ・インゲン・そら豆専門部員の館良男さん。

「部会全員で適期収穫を心がけており、毎年、6月には専門部による管内視察を行って、部会員同士の情報交換に努めている」「出荷規格を簡素化して、部会員の作業労力軽減と収量向上に努めている」と専門部の活動ポイントを紹介してくださいました。

J A 八戸のさやいんげんは、鮮度が良く美味しいので、ぜひ、食べてみてください!



キヌサヤ・インゲン・そら豆専門部員
館 良男さん



ながいもなどの輪作や転作田への導入で生産が拡大！



ね ぎ

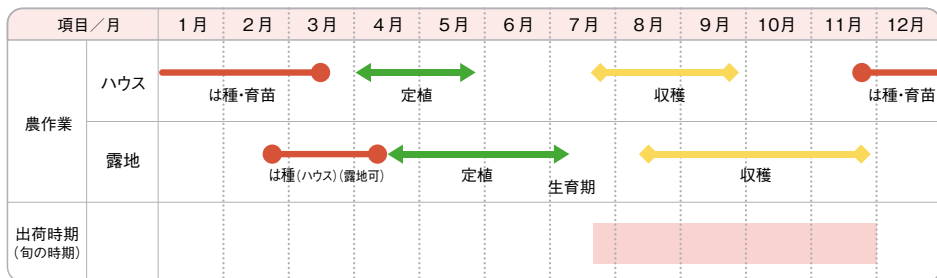
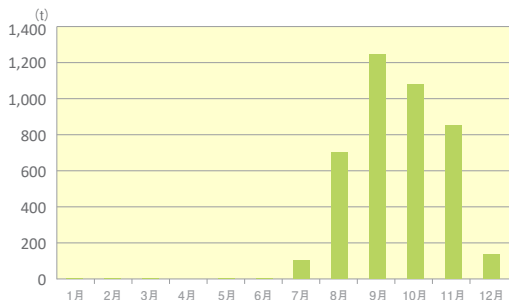
関東では白い部分が長い根深ねぎ（白ねぎ）が好まれ、関西では緑色が大部分の葉ねぎが好まれますが、青森県での生産は、土寄せをして軟白化させた根深ねぎが主体となっています。

県南地域では主にながいも等との輪作作物として、また、津軽地域では主に水田の転作作物として作付けされています。

全国の生産状況 (H29)

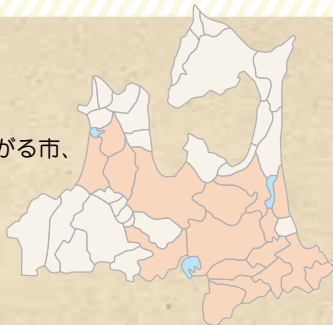
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	千葉	54,300	2,270
2	埼玉	46,800	2,420
3	茨城	44,800	1,900
4	北海道	21,200	732
5	群馬	15,500	1,040
9	青森	10,300	532
	全国	374,400	22,600

県産月別入荷量 (H29 東京都中央卸売市場)



主な産地

夏ねぎ：青森市、八戸市、田子町、五戸町、南部町、
三戸町、新郷村、階上町、五所川原市、つがる市、
中泊町、十和田市、七戸町、東北町
秋冬ねぎ：平川市、八戸市、田子町、五戸町、
南部町、三戸町、新郷村、階上町、
五所川原市、つがる市、中泊町、
十和田市、七戸町、東北町、三沢市、
六戸町



産地レポート

JA十和田おいらせ野菜振興会ねぎ専門部会 (ぼけしらずネギ)

◆産地の情報

JA十和田おいらせ野菜振興会ねぎ専門部会は、十和田市とその近隣町村の200名で構成され、約100haでねぎ栽培に取り組んでいます。



◆評価の高い「ぼけしらずネギ」

JA十和田おいらせは、栄養バランスの整った健康な土壌での野菜づくりを目指しています。健康な土壌をつくるため、堆肥分析装置や土壌分析・診断システムを導入して徹底した土壌分析を行い、過剰な肥料成分は控え、不足している肥料分だけを補給しています。

このような土壌で栽培し、出荷前の糖度と硝酸値が基準を満たした野菜が「十和田おいらせミネラル野菜」として出荷されます。さらに、最終培土後に手作業で土寄せすることで、葉身の緑と軟白部分の白色の境目をはっきりさせた「ぼけしらずネギ」は、市場から高い評価を得ています。

◆高品質生産への取組

部会員である十和田市大深内地区の水尻忠司さんは、健康な土壌から安全・安心なねぎを生産するため、土壌分析・診断に基づく適正施肥により、高品質なねぎ生産に取り組んでいます。



水尻さん夫妻



日本人が最も食べる野菜！
東京都中央卸売市場の
8月、9月の入荷量全国7位！



キャベツ

青森県のキャベツは、7月から10月に生産される夏秋キャベツを中心に出荷されています。

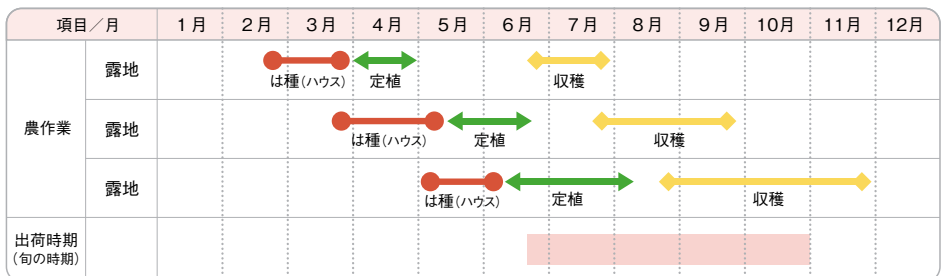
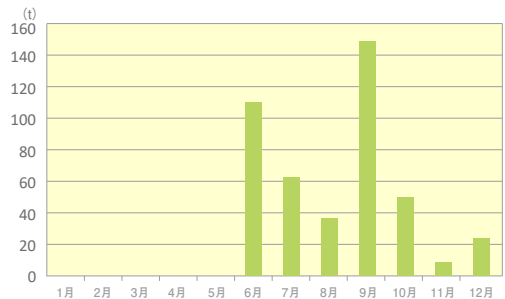
キャベツの品種・系統としては、「春系」や「寒玉系」などが代表的ですが、春系（サワー系）は葉がやわらかでサラダ向き、寒玉系は葉がややかためで加熱すると甘くなることから、餃子やロールキャベツに向きます。

青森県では、春系が主ですが、用途や生産時期に応じて寒玉系も生産され、主な産地は、おいらせ町、東北町、平川市などとなっています。

全国の生産状況 (H29)

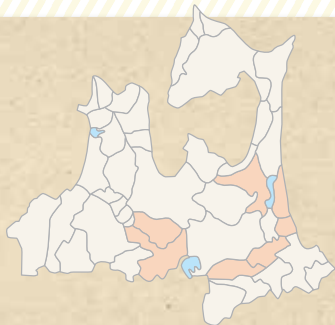
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	群馬	236,500	3,880
2	愛知	232,200	5,440
3	茨城	104,100	2,410
4	千葉	102,000	2,740
5	神奈川	73,200	1,630
14	青森	14,500	452
	全国	1,280,000	34,800

県産月別入荷量 (H29 東京都中央卸売市場)



主な産地

夏秋キャベツ：平川市、黒石市、五戸町、新郷村、
三沢市、東北町、おいらせ町



産地レポート

JA十和田おいらせ ももいし支店

◆産地の情報

JA十和田おいらせももいし支店のあるおいらせ町は、県内一の夏秋キャベツの産地として、県内外から高い評価を得ています。

JAでは、国内需要への対応と生産者の所得確保、収益向上を目的に、平成18年から加工・業務用キャベツの生産に取り組んでいます。



◆契約取引の取組

JAでは、主にサラダ商品用の材料として、県内外の流通・加工業者と加工・業務用キャベツの契約取引を行っています。

平成28年は契約取引先7社に約350tを出荷しました。

◆収益性向上に向けた取組

取引量を拡大し収益向上につなげるため、JAでは品種比較試験を行い、球のしまりが良く内葉に青みが残る品種を選び、取引先が要望する品種の作付けを進めています。現在の主な作付品種は「みくに」と「慶春」です。

また、出荷作業にスチールコンテナを利用し、省力化と流通経費の低減に努めています。



スチールコンテナでの出荷



涼しい気候の八甲田高冷地が産地！
高原レタスは鮮度の良さが決め手！



レタス

レタスといえば高原野菜の代表格として、長野県や群馬県をイメージする方も多いと思います。冷涼で乾燥した気候を好むレタスは、青森県の気候にも合い、夏秋期に生産されています。

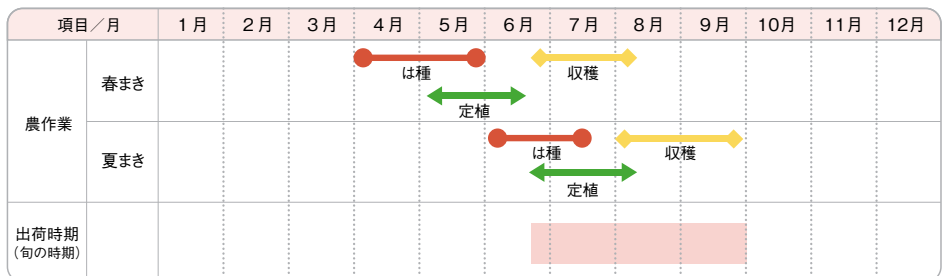
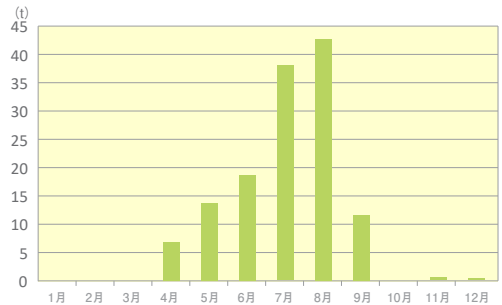
青森県産の出荷は、5月から9月が中心となっています。主な産地は、平川市、黒石市で、夏季も冷涼で昼夜の気温差が大きく夏秋期のレタスの生産に適している地域です。

全国の生産状況 (H29)

順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	長野	206,100	6,120
2	茨城	84,200	3,690
3	群馬	46,300	1,390
4	長崎	28,600	959
5	兵庫	24,700	1,230
21	青森	1,940	98
	全国	542,300	21,800

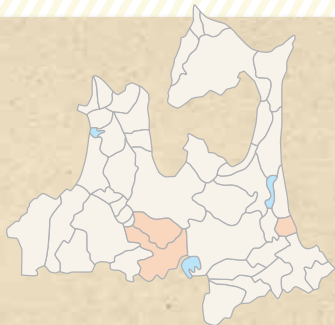
※サラダ菜を含む

県産月別入荷量 (H29 全農青森県本部取扱)



主な産地

夏秋レタス：平川市、黒石市、おいらせ町



産地レポート

南八甲田高原野菜生産組合
(JA津軽みらい)

◆産地の情報

南八甲田高原野菜生産組合の歴史は、戦後の入植・開拓から始まり、昭和40年代には畑作・畜産経営から徐々に野菜経営に転換し、昭和55年には組合を組織しました。平成8年には優れた組織活動が認められ、第34回朝日農業賞を受賞しています。生産組合の地区は標高の高い順に善光寺平、大木平、葛川、小国・切明、平六・井戸沢に大別されます。



八甲田山系の南西に位置し、標高350~700mの山間台地に広がった畑で、夏季の涼やかな気候を活かした夏場のレタスが栽培されています。

この産地は、昼夜の寒暖の差が大きいことから品質が良く、市場からも一目置かれる産地となっています。

◆雪が消えたらまずレタス作業、高冷地はレタスから始まる

高冷地では、だいこん、にんじんが多く作付けされていますが、雪解けに合わせてレタスの苗づくりが始まり、収穫もレタスが最初となります。



生産者の工藤則光・光枝夫妻

愛情たっぷり！
自慢のレタスをぜひ
ご賞味ください！！

◆環境にあった栽培による良品生産

①品種試験による品種選定

産地の環境にあった品種を導入するため、組合では品種試験を実施し、高冷地にあった物を見極めていきます。

②レタスに適した土づくり

土づくりに重点をおいており、レタスの生育に必要な栄養を蓄えた土壌にするため緑肥や堆肥を施用しています。

◆昔からの「絶対産地」

なんと、夏秋レタスで指定産地になったのは昭和47年で、それから40年以上ずっと産地を守っています。



ほうれんそうは秋からが旬！
夏場でも涼しい青森県は
1年中栽培可能！



ほうれんそう

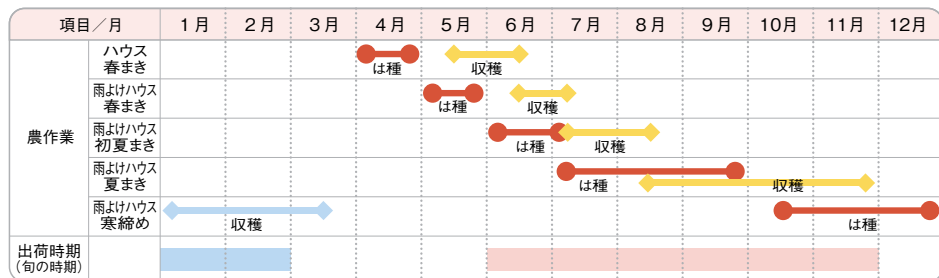
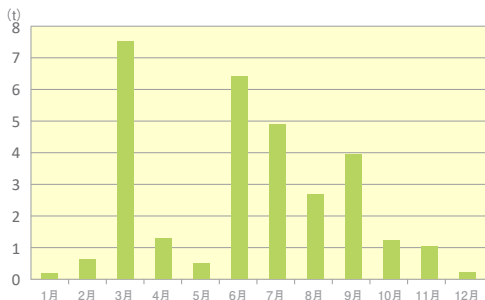
暑さに弱いほうれんそうは、夏が暑い他県では生産が困難です。このため、青森県では、涼しい気候を生かし、6月から9月を中心に生産されています。また、寒さにも強く、冬でも無加温ハウスで栽培できることから、年間を通じた生産も行っています。

は種から約1ヶ月で収穫でき、軽作業でできることから、高齢者でも生産が可能です。

全国の生産状況 (H29)

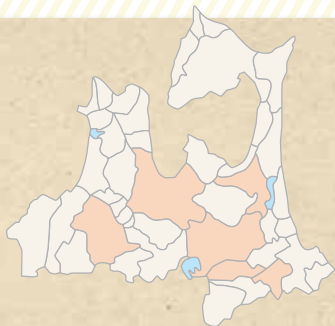
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	千葉	30,300	2,240
2	埼玉	19,800	2,030
3	群馬	17,000	1,820
4	茨城	15,800	1,180
5	宮崎	11,800	970
—	青森	—	—
	全国	193,300	20,500

県産月別入荷量 (H29 東京都中央卸売市場)



主な産地

東青地域：青森市
 中南地域：弘前市
 三八地域：南部町、新郷村
 上北地域：十和田市、東北町



産地レポート

J A 八戸野菜総合部会

◆産地の情報

J A 八戸野菜総合部会では、冬場の所得確保のために、平成17年から新郷村で輪ギクの後作としてほうれんそう栽培を進めています。このほうれんそうは、9月下旬～10月上旬の播種直後からハウスを開放し、寒さに当てることによって、通常より甘みを増した「寒締めちぢみほうれんそう」として12月中旬から2月下旬頃まで販売しています。この取組は年々拡大して、現在、八戸市、五戸町、南部町などJ A 八戸管内全域に広がり、生産者は60名、栽培面積は約4.0haの産地となっています。



◆ブランド化に向けた取組

J A 八戸では、寒締めちぢみほうれんそうのブランド化を図るために、出荷先の市場や県の農業普及振興室と連携した栽培研修会等を開催しているほか、栽培マニュアルの作成や、マルチ栽培による茎葉への土の付着防止、土壌肥料分の測定による適正な施肥管理など栽培技術の向上に努めています。

また、出荷前には、糖度8度以上を確認してから出荷するなど、品質や規格を統一した販売を行っています。

寒締めほうれんそう



冬期に葉や茎が縮んでシワシワになったほうれんそうが注目されています。ほうれんそうが寒さに耐えるために葉に糖などを蓄える性質を利用して、冬の冷たい空気にさらすことにより、通常のほうれんそうよりも甘くなったものが「寒締めほうれんそう」です。県内では新郷村、南部町、弘前市、東北町などで生産が盛んです。

寒さに耐える植物は、体内の糖濃度を高めて、凍ってしまうのを防ぐ働きを持っています。寒さに弱い植物・野菜はこの働きが弱く、凍って細胞が壊れ、枯れてしまいます。

ほうれんそうの場合は、糖度が上がるだけでなく、ビタミン類の含有量も高くなります。葉の色も濃くなり、甘みだけでなく濃厚な味になるといわれています。



転作田への導入で生産拡大！
 夏季冷涼な気候で全国的に品薄な
 夏秋期に出荷！



ブロッコリー

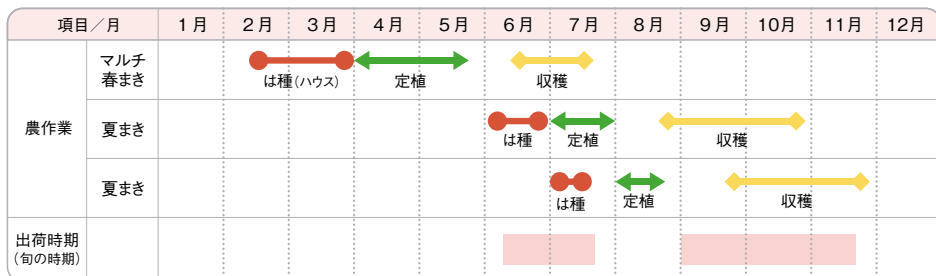
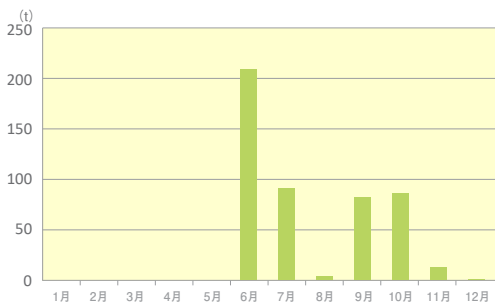
ブロッコリーは、夏場は北海道や長野県、秋冬は愛知県や埼玉県から出荷が多く、青森県ではこれらの産地の端境期となる6月と10月を中心に生産・出荷されています。

主な出荷先である首都圏では、鮮度の良さで高い評価を得ています。

全国の生産状況 (H29)

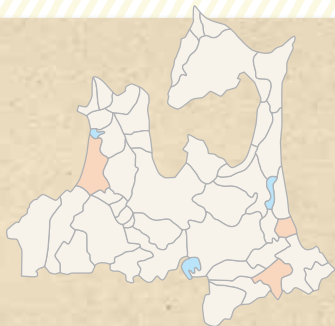
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	北海道	23,800	2,500
2	愛知	12,000	944
3	埼玉	11,200	1,210
4	香川	10,400	1,110
5	長野	9,470	923
21	青森	1,090	168
	全国	130,200	14,900

県産月別入荷量 (H29 東京都中央卸売市場)



主な産地

三八地域：南部町
西北地域：つがる市
上北地域：おいらせ町



産地レポート

J A つがるにしきた

◆産地の情報

つがる市は、津軽平野の岩木川左岸に位置する古くからの米どころ。米の生産調整の強化を背景に、早くからトマトやねぎ等との複合経営化が進められてきました。

その中で、ブロッコリーは平成8年に作付が開始され、

他品目と労力が重ならず、夏場に収益が得られることから生産が拡大し、平成27年には出荷額が2億円を突破しました。現在は作付面積が約95haと県内随一の産地が形成されています。



◆鮮度を保持する出荷体制を整え市場から高評価

気温の低いうちに収穫したブロッコリーは、すぐに集出荷施設へ搬入され、選別、発泡スチロール箱への箱詰めの際、保冷库に保管します。翌朝、細かく砕いた氷が箱いっぱい詰めに詰められ、鮮度と美味しさを保ったまま保冷車で首都圏に出荷されていきます。

集出荷施設は、選果機予冷库2基、貯水量8tの製氷貯氷機を備えています。



J A つがるにしきた
坂本さん

氷詰め出荷により、鮮度とおいしさが保たれ、首都圏の市場からも高い評価をいただいています！



選果・箱詰め



保冷库保管



氷詰め

青森の伝統野菜

○筒井紅かぶ・笹石かぶ

青森市内で100年以上前から漬物用の赤かぶとして、筒井地区で「筒井紅かぶ」、久栗坂地区で「笹石かぶ」が栽培されています。

どちらも収量が低く、漬物需要の減少などから作付けが減少しましたが、平成26年、伝統野菜を伝承する「あおり伝統野菜研究会」が結成され栽培技術研修会など作付拡大活動を展開しています。

○大鰐温泉もやし

大鰐温泉の特産品で、350年以上前から温泉を熱源とした半地下の「土室(つちむろ)」の中で豆もやしとそばもやしが生産されます。

栽培から出荷洗浄までに使用する水も温泉水を使っていることから、独特の芳香とシャキシャキした食感が特徴です。おひたしや炒め物、ラーメン、鍋物などにされています。

○清水森ナンバ

旧津軽藩主が京都から持ち帰ったのが栽培の始まりと伝えられている在来種のトウガラシで、弘前市清水森地区で栽培されていました。

2004年に、地元関係者や学識経験者などが「在来津軽『清水森ナンバ』ブランド確立研究会」を設立し、種子の確保、栽培体系の確立に取り組み、爽やかな辛さとほのかな甘みが特徴の特産品として販売されています。



清水森ナンバ



大鰐温泉

○食用ぎく

三八地域で古くから栽培されている主力品種の「阿房宮」は、鮮やかな黄色と気品のある香り、しゃきしゃきした食感が特徴です。

10月下旬～11月上旬にかけて摘み取られ、酢の物や和え物などの郷土料理の彩りとして欠かせない存在となっています。蒸して乾燥させた「干し菊」は特産品となっています。

○糠塚きゅうり

藩政時代に八戸市糠塚地区に植えたのが始まりとされています。栽培面積は減少してきましたが、八戸の伝統野菜「糠塚きゅうり」の純粋な種子の継承と生産技術の伝承を図るため、平成26年2月に市内の生産者で「八戸伝統野菜糠塚きゅうり生産伝承会」を設立し、生産の維持に努めています。

よく冷やしたものを割って種を取り、味噌をつけて食べるのが最もおいしいといわれています。歯切れの良い食感とみずみずしさが魅力となっています。

○南部太ねぎ

一般品種と比べて甘く、鍋や天ぷらなどに合うことから南部町で多くの農家が栽培していたものの、新品種開発や機械化が進むと一気に衰退し、栽培者が1人だけになりました。

名久井農業高校では、種を譲り受け、栽培してきましたが、その思いが地元の農家に引き継がれ現在では約10人が栽培しています。



高井紅かぶ 赤石かぶ



食用ぎく



糠塚きゅうり



南部太ねぎ



泉もやし



まだまだあるぞ！ あおもり野菜



嶽きみ

弘前市の西部にある岩木山麓の嶽地区（標高400～500m）で栽培・収穫された甘みの強いスイートコーンで、「嶽きみ」の商標で販売されています。日中と夜間の温度差が生み出す圧倒的な甘さと美味しさが、多くの人に愛され、全国的に有名な産地となっています。



バサラコーン

青森市の浪岡地区では、粒が大きく、味がよいスイートコーンを生産しており、「バサラコーン」の商標で販売されています。「バサラ（婆娑羅）」とは、中世代の武将などの華美な装飾をまとった伊達（だて）な風体やふるまいなどを表しますが、ここでは時代に新風を起こすという意味で使われています。



アスパラガス

鯉ヶ沢町を筆頭に県内各地で栽培されています。収穫期間（普通栽培で4月下旬～7月上旬頃）を拡大するために、早めに若茎を伸ばして光合成をさせながら収穫を続ける立茎栽培や、夏に養成した親株をハウスに伏せ込み冬場に出荷する促成栽培などが行われています。



一球入魂かぼちゃ

1個に株全体のうまみを凝縮させた大変美味しい高級かぼちゃで、下北地域と今別町の特産野菜として注目されています。

濃い緑色の果皮と山吹色の鮮やかな果肉、糖度13～15度の甘さとホクホクした食感の絶妙なバランスが特徴です。

一球入魂かぼちゃブランド戦略協議会が商標登録して、販売しています。



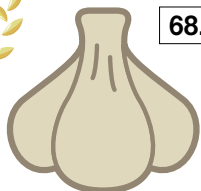
《出荷量の全国順位とシェア》

出荷量の全国ベスト10に11品目 (H29)

青森県で生産される野菜の中には、全国一の出荷量を誇るにんにく、ごぼうをはじめとして、ながいも、だいこん、かぶなど出荷量が全国の10位以内に入る品目が11品目あります。



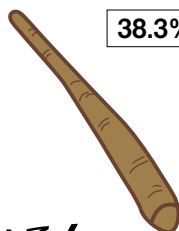
にんにく



68.0%



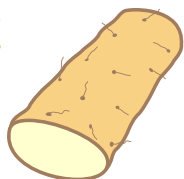
ごぼう



38.3%



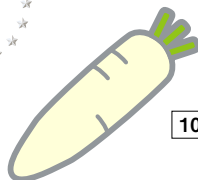
ながいも



40.4%



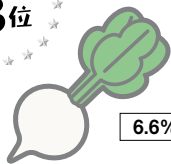
だいこん



10.7%



かぶ



6.6%



にんじん

6.5%

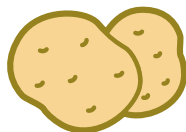
メロン



6.5%



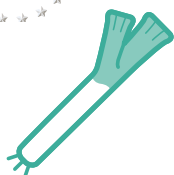
ばれいしょ



0.7%



ねぎ



2.8%



そらまめ

2.1%

ピーマン

2.0%



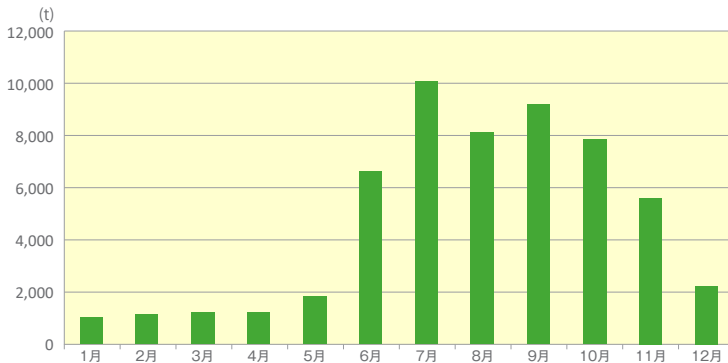
資料：野菜生産出荷統計 (H29)

夏秋期に高い評価

ながいもやにんにく、ごぼうなど貯蔵できる一部の品目を除くと、青森県産野菜の出荷時期は夏秋期が中心です。

一般に、気温が高くなると、病害虫の発生が多く良品質の野菜を生産することが困難になります。青森県は、夏場が比較的冷涼なことから、夏秋期に品質の優れた美味しい野菜を生産しています。

【東京都中央卸売市場における青森県産野菜の入荷量（H29）】

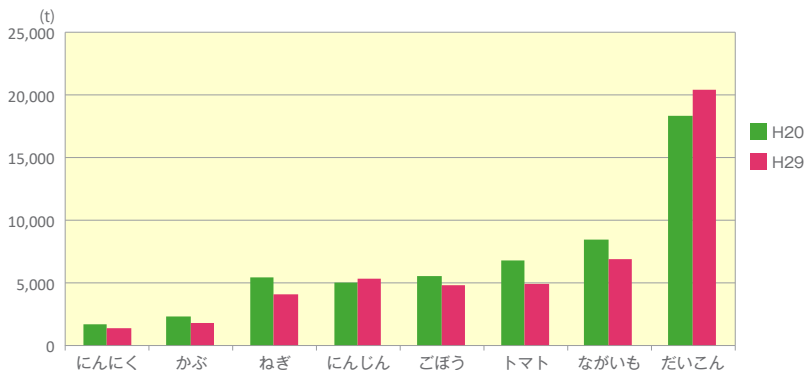


東北では1位のシェア

高速交通網の整備やコールドチェーン（産地から消費地まで一貫した低温状態での流通）の発達等によって遠隔地への出荷が拡大しています。

東京都中央卸売市場への出荷量は、平成29年には56,060 t で全国で7位、東北で1位のシェアを占めています。

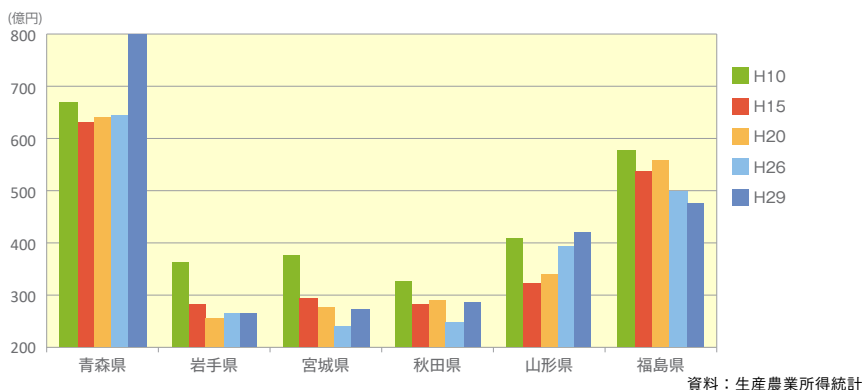
【東京都中央卸売市場における青森県産野菜入荷量の変化】



野菜産出額東北一を堅持

平成29年の野菜産出額（いも類含む）は、794億円となり、全国で12位、東北では平成6年に福島県を抜いて以来、24年連続して1位になっています。

【野菜産出額の推移】

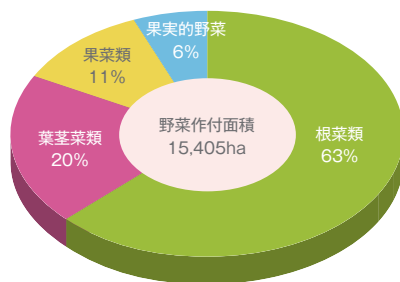


広大な農地を利用して根菜類中心の作付け

平成29年の野菜作付面積は、15,405haと前年に比べやや減少しています。

品目別では、ながいも、ごぼう、にんにく、だいこんなどの根菜・土物類が大きな割合を占めています。

【青森県の野菜の類別作付面積構成比（H29）】



資料：野菜生産出荷統計（青森県データがある28品目で算出）

付 表

主要野菜の生産・出荷状況 (H29)

(単位: ha、t、%)

区 分	青 森 県			全 国			全国シェア (%)			全国順位		
	作付面積 (ha)	収穫量 (t)	出荷量 (t)	作付面積 (ha)	収穫量 (t)	出荷量 (t)	面積	収穫量	出荷量	面積	収穫量	出荷量
だいこん	2,970	128,500	116,000	32,000	1,325,000	1,087,000	9%	10%	11%	2	3	3
やまのいも	2,280	54,300	48,500	7,150	159,300	134,300	32%	34%	36%	1	2	2
うち、ながいも	2,250	53,800	48,100	5,200	138,300	119,000	43%	39%	40%	1	2	2
ごぼう	2,340	50,100	47,000	7,950	142,100	122,800	29%	35%	38%	1	1	1
にんにく	1,380	13,700	9,860	2,430	20,700	14,500	57%	66%	68%	1	1	1
にんじん	1,160	38,000	34,900	17,900	596,500	533,700	6%	6%	7%	3	4	4
ばれいしょ	751	18,600	13,800	77,200	2,395,000	1,996,000	1%	1%	1%	8	8	6
メロン	519	10,400	9,140	6,770	155,000	140,700	8%	7%	6%	5	4	4
ねぎ	532	13,300	10,300	22,600	458,800	374,400	2%	3%	3%	15	8	9
キャベツ	452	17,000	14,500	34,800	1,428,000	1,280,000	1%	1%	1%	17	14	14
スイートコーン	433	3,560	1,800	22,700	231,700	186,300	2%	2%	1%	14	12	14
トマト	380	17,600	15,400	12,000	737,200	667,800	3%	2%	2%	7	13	12
うち、ミニトマト	52	2,460	2,210	2,480	142,700	131,900	2%	2%	2%	13	15	15
うち、加工用トマト	11	146	146	422	29,700	29,700	3%	0%	0%	7	12	12
すいか	300	8,400	7,310	10,200	331,100	284,400	3%	3%	3%	13	13	13
えだまめ	282	1,170	500	12,900	67,700	51,800	2%	2%	1%	11	12	13
はくさい	189	5,220	3,300	17,200	880,900	726,800	1%	1%	0%	26	27	23
かぼちゃ	230	2,690	1,570	15,800	201,300	161,000	1%	1%	1%	12	12	12
かぶ	193	7,240	6,510	4,420	119,300	98,800	4%	6%	7%	5	3	3
ほうれんそう	20,500	228,100	193,300	-	-	-	-	-	-
ブロッコリー	168	1,240	1,090	14,900	144,600	130,200	1%	1%	1%	18	21	21
きゅうり	157	5,240	4,030	10,800	559,500	483,200	1%	1%	1%	23	26	26
アスパラガス	156	601	447	5,330	26,200	23,000	3%	2%	2%	8	14	15
なす	9,160	307,800	241,400	-	-	-	-	-	-
レタス	98	2,150	1,940	21,800	583,200	542,300	0%	0%	0%	22	21	21
うち、サラダ菜	2	31	31	437	7,830	7,260	0%	0%	0%	16	17	16
さやいんげん	108	807	484	5,590	39,800	26,400	2%	2%	2%	15	11	12
いちご	87	1,110	922	5,280	163,700	150,200	2%	1%	1%	21	26	26
ピーマン	89	3,120	2,570	3,250	147,000	129,800	3%	2%	2%	11	9	10
うち、ししとう	1	6	6	346	7,830	6,420	0%	0%	0%	27	28	28
さやえんどう	70	320	197	3,050	21,700	13,800	2%	1%	1%	17	20	14
グリーンピース	772	6,410	5,060	-	-	-	-	-	-
こまつな	7,010	112,100	99,200	-	-	-	-	-	-
しゅんぎく	31	250	158	1,930	29,000	23,500	2%	1%	1%	19	24	24
たまねぎ	25,600	1,228,000	1,099,000	-	-	-	-	-	-
カリフラワー	20	188	133	1,230	20,100	17,000	2%	1%	1%	17	17	17
そらまめ	25	255	230	1,900	15,500	10,700	1%	2%	2%	17	13	10
にら	2,060	59,600	53,900	-	-	-	-	-	-
ちんげんさい	2,200	43,100	38,000	-	-	-	-	-	-
ふき	5	25	7	557	10,700	9,130	1%	0%	0%	19	19	19
さといも	12,000	148,600	97,000	-	-	-	-	-	-
みつば	957	15,400	14,400	-	-	-	-	-	-
みずな	2,460	42,100	38,000	-	-	-	-	-	-
セルリー	580	32,200	30,600	-	-	-	-	-	-
れんこん	3,970	61,500	51,600	-	-	-	-	-	-
しょうが	1,780	48,300	38,100	-	-	-	-	-	-

注:「…」は生産・出荷の事実が不詳または調査を欠くものを示す

資料: 野菜生産出荷統計

野菜生産状況の推移

区 分	青 森 県				全 国			
	作付面積 (ha)	収穫量 (t)	出荷量 (t)	出荷率 (%)	作付面積 (ha)	収穫量 (千t)	出荷量 (千t)	出荷率 (%)
S50	17,500	397,500	268,580	67.6	656,200	17,906	13,346	74.5
S55	19,400	380,500	280,113	73.6	682,700	18,676	14,460	77.4
S60	21,030	451,947	354,041	78.3	681,100	18,896	14,811	78.4
H元	21,930	461,346	361,704	78.4	658,700	18,507	14,578	78.8
H2	22,170	495,529	387,064	78.1	647,200	18,107	14,269	78.8
H3	22,060	480,821	377,717	78.6	639,400	17,727	14,081	79.4
H4	22,020	477,273	373,947	78.4	631,100	18,009	14,254	79.1
H5	21,920	453,707	358,709	79.1	617,700	17,065	13,665	80.1
H6	21,970	484,481	386,476	79.8	602,100	16,852	13,500	80.1
H7	21,250	490,791	396,001	80.7	588,200	16,907	13,557	80.2
H8	21,130	482,076	383,604	79.6	579,300	16,666	13,376	80.3
H9	21,030	489,856	388,721	79.4	569,300	16,675	13,426	80.5
H10	20,990	471,130	373,255	79.2	560,000	15,707	12,687	80.8
H11	20,940	494,424	392,552	79.4	553,200	15,829	12,804	80.9
H12	20,850	499,172	399,409	80.0	539,600	15,667	12,694	81.0
H13	20,130	482,354	386,881	80.2	524,800	15,547	12,628	81.2
H14	18,900	469,900	377,800	80.4	539,300	15,695	12,781	81.4
H15	18,200	440,000	357,600	81.3	528,200	15,169	12,419	81.9
H16	17,900	467,300	381,600	81.7	519,400	14,540	11,922	82.0
H17	17,100	457,600	374,900	81.9	511,900	14,528	11,895	81.9
H18	17,400	477,300	394,400	82.6	505,800	14,332	11,749	82.0
H19	18,126	482,798	404,609	83.8	503,360	14,746	12,230	82.9
H20	17,442	468,928	395,289	84.3	500,703	14,604	12,127	83.0
H21	16,588	443,860	380,681	85.8	498,160	14,048	11,660	83.0
H22	17,403	417,192	356,027	85.3	495,535	13,365	11,129	83.3
H23	16,009	425,459	367,389	86.4	490,271	13,513	11,298	83.6
H24	15,586	462,478	355,947	77.0	488,448	13,799	11,561	83.8
H25	16,606	419,865	359,926	85.7	480,510	13,544	11,446	84.5
H26	15,105	407,659	353,465	86.7	476,990	13,757	11,665	84.8
H27	15,112	413,782	360,985	87.2	473,811	13,648	11,601	85.0
H28	16,121	404,667	355,258	87.8	470,765	13,174	11,199	85.0
H29	15,405	405,086	352,598	87.0	468,706	13,344	11,419	85.6
H29/H19	85%	84%	87%	—	93%	90%	93%	—
H29/H24	99%	88%	99%	—	96%	97%	99%	—
H29/H28	96%	100%	99%	—	100%	101%	102%	—

注：野菜生産出荷統計の調査品目の積上げ

資料：野菜生産出荷統計

野菜産出額及び農業産出額の推移

(単位：億円、%)

区 分	野 菜 産 出 額					農 業 産 出 額		
	青森県 (億円)	東 北 (億円)	全 国 (億円)	青森県の順位		青森県 (億円)	野菜の占 める割合 (%)	全 国 (億円)
				東 北	全 国			
S50	295	1,551	14,951	2	19	2,908	10.1	89,751
S55	343	1,429	20,858	3	21	2,345	14.6	102,293
S63	516	2,409	23,981	2	16	2,723	18.9	104,636
H元	530	2,522	24,665	2	16	3,173	16.7	109,583
H2	620	2,811	27,168	2	16	3,270	19.0	112,786
H3	622	2,897	28,495	2	17	3,004	20.7	111,865
H4	580	2,681	25,969	2	16	3,500	16.6	111,385
H5	637	2,848	27,774	2	16	2,552	25.0	104,069
H6	705	2,877	27,514	1	14	3,575	19.7	112,691
H7	646	2,672	26,481	1	15	3,193	20.2	105,846
H8	647	2,587	25,642	1	14	3,131	20.7	104,468
H9	630	2,620	25,378	1	15	2,849	22.1	98,316
H10	667	2,708	27,419	1	15	2,801	23.8	98,680
H11	666	2,594	24,991	1	14	2,776	24.0	94,718
H12	630	2,426	23,486	1	14	2,648	23.8	92,574
H13	598	2,375	22,861	1	14	2,575	23.2	89,734
H14	625	2,427	23,864	1	13	2,570	24.3	89,261
H15	626	2,337	23,370	1	14	2,402	26.1	89,011
H16	716	2,490	23,421	1	10	2,953	24.2	89,130
H17	611	2,227	22,337	1	14	2,797	21.8	88,058
H18	675	2,378	22,565	1	12	2,885	23.3	86,321
H19	697	2,450	22,879	1	12	2,858	24.3	84,449
H20	639	2,349	23,188	1	14	2,828	22.6	86,509
H21	585	2,299	22,965	1	14	2,664	22.0	83,136
H22	661	2,401	24,585	1	13	2,757	24.0	82,551
H23	631	2,179	23,405	1	14	2,804	22.5	83,455
H24	588	2,133	23,746	1	13	2,759	21.3	86,106
H25	641	2,275	24,529	1	13	2,835	22.6	85,742
H26	683	2,260	24,499	1	13	2,879	23.7	84,279
H27	773	2,490	26,200	1	13	3,068	25.2	88,631
H28	887	2,686	27,958	1	10	3,221	27.5	93,051
H29	794	2,504	26,703	1	12	3,103	25.6	93,787
H29/H19	113.9	102.2	116.7	—	—	108.6	—	111.1
H29/H24	135.0	117.4	112.5	—	—	112.5	—	108.9
H29/H28	89.5	93.2	95.5	—	—	96.3	—	100.8

注：野菜産出額は野菜+いも類の合計値

資料：生産農業所得統計

東京都中央卸売市場における青森県産の入荷量とシェア（H29）

（単位：t・%）

品目	入荷量 (t)	月別シェア(%)												
		年計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
野菜合計	56,060	4	1	1	1	1	1	5	8	6	7	6	5	2
だいこん	20,598	16	0	0	0	0	6	57	39	21	33	30	18	2
ながいも	6,915	73	66	72	69	74	74	77	71	72	75	77	73	69
にんじん	5,350	6	0	0	1	2	0	2	45	11	1	5	9	0
トマト	4,988	6	0	0	0	0	0	1	16	20	16	9	2	0
ごぼう	4,884	55	57	57	62	68	49	21	7	7	46	65	80	72
ねぎ	4,145	8	0	0	0	0	0	0	3	18	26	21	16	2
かぶ	1,824	12	0	0	0	0	7	22	45	46	24	17	10	5
にんにく	1,423	42	51	57	51	43	28	39	29	38	35	34	43	49
ミニトマト	1,248	6	0	0	0	0	0	2	11	20	19	9	3	0
ばれいしょ	1,081	1	0	0	0	0	0	0	2	8	5	1	0	0
すいか	931	2	0	0	0	0	0	0	1	8	8	0	0	0
メロン	880	5	0	0	0	0	0	0	4	25	11	0	0	0
きゅうり	719	1	0	0	0	0	0	0	2	4	2	1	0	0
ピーマン	668	3	0	0	0	0	0	0	7	13	9	3	0	0
ブロッコリー	485	2	0	0	0	0	0	10	4	0	5	4	1	0
キャベツ	440	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0
かぼちゃ	337	1	0	0	0	0	0	0	1	9	1	0	0	0
いんげん	139	4	0	0	0	0	0	1	8	15	12	8	0	0
えだまめ	79	1	0	0	0	0	0	0	1	3	2	1	0	0
スイートコーン	60	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0
はくさい	58	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
さやえんどう	57	4	0	0	0	0	1	17	42	0	2	4	1	0
ほうれんそう	30	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
アスパラガス	24	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0
いちご	18	0	0	0	0	0	0	2	7	5	7	3	0	0
なす	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
レタス	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

注：野菜合計は当該市場の野菜入量の合計であり、果実的野菜（メロン、すいか等）を含まない

大阪市中央卸売市場（本場）における青森県産の入荷量とシェア（H29）

（単位：t・%）

品目	入荷量 (t)	月別シェア(%)												
		年計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
野菜合計	8,742	2	1	1	1	1	1	3	6	4	3	3	3	1
ながいも	1,876	34	35	29	24	36	29	36	35	41	47	33	32	30
だいこん	1,452	5	2	0	0	0	6	38	2	0	3	6	16	0
ごぼう	1,227	18	18	13	21	26	30	4	5	8	15	28	32	16
にんじん	1,119	5	0	0	0	0	0	3	56	5	0	1	1	0
ばれいしょ	1,053	3	0	0	0	0	0	0	14	19	6	0	0	0
ピーマン	702	12	0	0	0	0	0	0	19	25	38	29	7	0
にんにく	445	69	72	72	75	72	62	64	75	80	69	57	62	57
メロン	375	5	0	0	0	0	1	0	6	23	4	0	0	0
かぶ	253	23	0	0	0	0	25	97	99	100	94	72	13	0
トマト	214	1	0	0	0	0	0	0	2	2	2	2	1	0
やまのいも	133	40	26	1	12	25	29	20	19	27	23	46	53	13
すいか	96	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0
そらまめ	55	17	0	0	0	0	0	73	92	64	0	0	0	0

注：野菜合計は当該市場の野菜入量の合計であり、果実的野菜（メロン、すいか等）を含まない

名古屋市中央卸売市場における青森県産の入荷量とシェア（H29）

（単位：t・%）

品目	入荷量 (t)	月別シェア(%)												
		年計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
野菜合計	12,718	3	2	2	2	2	1	4	7	4	4	5	5	2
ながいも	3,819	67	61	69	65	65	69	67	70	67	76	74	57	58
だいこん	3,663	18	0	0	0	0	3	46	44	25	37	39	21	0
ごぼう	2,642	46	55	51	66	62	42	10	0	0	28	60	74	65
にんじん	1,526	6	0	0	0	0	0	9	58	10	0	2	11	0
メークイン	424	11	0	0	0	0	0	0	56	58	24	2	0	0
メロン	379	7	0	0	0	0	0	0	9	36	8	0	0	0
すいか	351	3	0	0	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0
にんにく	340	43	51	54	48	42	47	38	27	32	38	35	46	45
ばれいしょ	123	0	0	0	0	0	0	0	0	6	1	0	0	0
ねぎ	44	1	0	0	0	0	0	0	0	0	6	4	0	0
そらまめ	35	15	0	0	0	0	0	67	95	0	0
やまのいも	25	53	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	89	34
ブロッコリー	24	0	0	0	0	0	0	0	1	1	4	0	0	0
かぶ	9	1	0	0	0	0	0	8	12	12	7	0	0	0
さやえんどう	7	8	0	0	0	0	0	82	80	0	0	0	0	0
う	6	22	39	35	15	0	0	67
きぬさやえんどう	6	2	0	0	0	0	0	34	30	0	19	8	0	0

注：野菜合計は公表のあった数値を積上げたものであり、野菜の果実（メロン、すいか等）は合計に含まない
「…」は入荷の事実が不詳のものを示す

県内卸売市場における青森県産の入荷量とシェア（H29）

（単位：t・%）

品目	入荷量 (t)	月別シェア(%)												
		年計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
野菜合計	114,891	58	25	26	27	38	38	62	77	77	76	75	74	52
だいこん	31,278	84	0	0	0	0	72	97	97	97	97	96	91	16
にんじん	10,217	67	18	11	8	16	9	43	99	95	79	89	86	19
ごぼう	24,475	98	100	99	99	97	98	81	56	78	99	99	98	99
はくさい	2,407	38	1	1	0	0	23	73	59	33	54	75	63	21
キャベツ	8,382	49	1	1	0	0	2	67	91	83	84	77	73	23
ほうれんそう	895	45	25	33	48	49	45	45	54	54	60	59	63	37
ねぎ	2,350	53	23	15	8	8	35	33	37	81	85	90	85	55
なす	168	12	0	0	0	0	0	1	16	46	30	9	0	0
トマト	2,264	43	1	0	0	0	9	32	90	97	95	81	63	9
きゅうり	1,575	30	0	0	0	1	10	32	73	80	69	40	16	0
ピーマン	491	33	0	0	0	0	0	3	61	84	81	52	26	1
かんしょ	4	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ばれいしょ	1,438	22	0	4	5	2	0	0	35	81	72	24	17	9
さといも	12	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	40	29	5
たまねぎ	175	1	1	0	0	0	0	0	2	4	2	3	1	1
レタス	850	21	2	2	1	5	20	38	66	63	42	13	13	5
ながいも	16,149	98	97	98	99	99	97	99	99	99	100	99	96	95
にんにく	3,488	96	99	98	97	96	92	93	98	96	95	96	95	96
いちご	534	34	16	15	24	33	47	94	100	94	97	95	24	18
すいか	3,892	78	0	0	0	1	0	4	83	97	99	0	0	0
メロン	4,821	84	0	0	0	0	0	4	90	99	97	13	20	0
その他	8,273	29	7	7	6	14	22	35	46	54	49	39	40	19

注：県内卸売市場（青森市、弘前市、八戸市、五所川原市、十和田市、南部町、むつ市）7市場における割合であり、野菜の果実（メロン、すいか等）は合計に含まない



Aomori vegetables Calender in Season

旬のカレンダー



品目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1.ながいも	[Yellow bar]											
2.にんにく	[Yellow bar]											
3.だいこん						[Yellow bar]						
4.にんじん	[Yellow bar] 雪下にんじん					[Yellow bar]						
5.アスパラガス	[Yellow bar] 促成栽培				[Yellow bar]							
6.こかぶ						[Yellow bar]						
7.トマト						[Yellow bar]						
8.ミニトマト						[Yellow bar]						
9.ばれいしょ							[Yellow bar]					
10.とうもろこし							[Yellow bar]					
11.えだまめ							[Yellow bar]					
12.さやいんげん						[Yellow bar]						
13.ごぼう	[Yellow bar]									[Yellow bar]		
14.ねぎ							[Yellow bar]					
15.キャベツ						[Yellow bar]						
16.きゅうり						[Yellow bar]						
17.レタス						[Yellow bar]						
18.ピーマン						[Yellow bar]						
19.かぼちゃ							[Yellow bar]					
20.ほうれんそう	[Yellow bar] 寒締め					[Yellow bar]						
21.食用ぎく							[Yellow bar]					
22.メロン							[Yellow bar]					
23.すいか							[Yellow bar]					
24.いちご	[Yellow bar]											

「日本一健康な土づくり運動」

青森県では、安全・安心で良質な農産物を安定的に生産・供給するため、県内の全ての生産者が「健康な土づくり」に取り組むことを目指す「日本一健康な土づくり運動」を展開しています。

「健康な土づくり」の主な取組内容

① 土壌診断の実施

- 土の健康診断である「土壌診断」を実施し、適正施肥を推進
- 農協グループを中心とした効率的な土壌診断体制を整備



青森県の土壌診断体制図

JA全農あおもりが
県内全域をカバー！

実施農協・市町村は
分析・診断を継続

県は診断・生産指導
をバックアップ



JA全農あおもり
土壌分析センター



生産者への土づくりの
啓発

」 展開中！



②土づくりの実践

- 土づくりの基本技術（たい肥の利用など）を励行
- 持続可能な土づくり体制を構築
- 高度な土づくりを実践する「あおり土づくりの匠」の認定



稲わらのすき込みや
たい肥散布など有機
質資源の有効利用



作業組織等の育成や
たい肥センターの活用



「あおり土づくりの匠」
の認定

③栽培管理、収穫

- ほ場での栽培管理～収穫作業＜例：ながいも＞



植付



栽培管理



収穫

健康な土づくりにより、
作物が丈夫に育ち、
安全・安心で品質の良い
農産物が消費者に提供さ
れます。



元気の農産物



食卓が笑顔に

